書記　三人　判任

第三條　所長ハ所在地帝國領事ヲ以テ之ニ充ツ所中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第四條　技師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ工務ヲ掌理ス

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第六條　書記ハ外務書記生及外務通譯生ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

朕日本專管居留地經營事務監督官及日本專管居留地經營事務所職員旅費及手當支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

外務大臣子爵青木周藏

勅令第百十一號（官報　三月三十一日）

第一條　日本專管居留地經營事務監督官及日本專管居留地經營事務所技師ニハ領事相當ノ額ヲ以テ日本專管居留地經營事務所技手ニハ外務書記生相當ノ額ヲ以テ公使館領事館費用條例ノ規定ニ準シ旅費ヲ給ス

第二條　日本專管居留地經營事務監督官ニハ出張ノ時ニ於テ二百五十圓以內ノ支度料ヲ給シ日本專管居留地經營事務所技師及同技手ニハ赴任、轉所及歸朝ノ時ニ於テ左ノ支度料ヲ給ス

技師　三百圓以內

技手　百五十圓以內

第三條　日本專管居留地經營事務所技師ニハ年額二千四百圓以內同技手ニハ年額九百圓以內ノ在勤手當ヲ給ス

○

朕在外國帝國專管居留地特別會計法ヲ適用スヘキ居留地指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

外務大臣子爵青木周藏

勅令第百十二號（官報　三月三十一日）

在外國帝國專管居留地特別會計法ハ明治三十三年度ヨリ在淸國天津日本專管居留地ニ之ヲ適用ス

○

朕在外國帝國專管居留地經營事務監督ノ爲臨時職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

大藏大臣伯爵松方正義

外務大臣子爵青木周藏

勅令第百十三號（官報　三月三十一日）

在外國帝國專管居留地經營事務ノ監督ヲ爲サシムル爲臨時外務省ニ日本專管居留地經營事務監督官三人ヲ置キ外務省及大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

○

朕公使館領事館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

外務大臣子爵青木周蔵

勅令第百十四號（官報　三月三十一日）

公使館領事館費用條例中左ノ通改正ス

別表第二號ニ左ノ一項ヲ加フ

馬山	—	二、六〇〇	—	一、二〇〇以下	九〇〇以下	—	一、八〇〇

○

朕警察監獄學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百十五號（官報　三月三十一日）

警察監獄學校官制中左ノ通改正ス

第一條中幹事ノ次ニ左ノ如ク加フ

通譯官　專任三人　奏任

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二　通譯官ハ校長ノ指揮ヲ承ケ通譯及翻譯ノ事ヲ掌ル

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕警察監獄學校通譯官官等俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百十六號（官報　三月三十一日）

警察監獄學校通譯官ハ高等官五等以下トシ其ノ年俸ハ左表ニ依ル

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕警察監獄學校職員俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西郷從道

勅令第百十七號（官報　三月三十一日）

警察監獄學校職員俸給令中但書ヲ削除ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百五十五號警察監獄學校職員俸給令（明治三十二年四月二十日官報）

警察監獄學校教授及幹事ノ俸給ハ高等官官等俸給令中高等文官年俸第二號表ニ依ル但シ幹事ハ五級俸以下トス

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

御名御璽

明治三十三年三月三十日

勅令第百十八號（官報　三月三十一日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中内務省ノ部警察監獄學校教授ノ次四等乃至八等ノ欄ニ左ノ一項ヲ加ヘ集治監典獄ノ次警察監獄學校幹事ノ一項ヲ削ル

警察監獄學校幹事	同上	同上	同上	一級俸 二級俸	三級俸 四級俸	五級俸 六級俸 七級俸	八級俸 九級俸	十級俸

文武高等官官等相當俸給表中監獄事務官ノ次ニ「警察監獄學校幹事」ヲ海軍通譯官ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ北海道廳事務官、北海道廳支廳長、北海道廳參事官、北海道廳警視及北海道廳典獄ノ各項ヲ削ル

警察監獄學校通譯官				一級俸 二級俸	三級俸 四級俸	五級俸 六級俸 七級俸	八級俸 九級俸	十級俸

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕臺灣總督府海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西郷從道

御名御璽

明治三十三年三月三十日

勅令第百十九號（官報　三月三十一日）

臺灣總督府海港檢疫所官制

第一條　臺灣總督府海港檢疫所ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ臺灣海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臺北縣基隆ニ海港檢疫所ヲ置キ基隆海港檢疫所ト稱ス

前項ノ外臺北縣滬尾ニ基隆海港檢疫所ノ支所ヲ置ク

第三條　海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人	奏任	
海港檢疫官	專任一人	奏任	
海港檢疫醫官	專任一人	判任	
海港檢疫官補	專任一人	判任	
海港檢疫醫官補	專任一人	判任	
海港檢疫所調劑手	專任一人	判任	
海港檢疫所書記	專任二人	判任	

海港檢疫所支所ニ左ノ職員ヲ置ク

支所長	一人	判任	
海港檢疫官補	專任一人	判任	
海港檢疫醫官補	專任一人	判任	
海港檢疫所書記	專任二人	判任	

第四條　所長ハ海港檢疫官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス

所長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

所長ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ所中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

支所長ハ海港檢疫官補ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス

支所長ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　海港檢疫官ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ヲ掌ル

第六條　海港檢疫醫官ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

第七條　海港檢疫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ從事ス

第八條　海港檢疫醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第九條　海港檢疫所調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第十條　海港檢疫所書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務若ハ通譯ニ從事セシムル爲豫算定額內ニ於テ海港檢疫所又ハ支所ニ檢疫員檢疫醫員ヲ置クコトヲ得

檢疫員及檢疫醫員ハ判任ノ待遇トス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕臺灣總督府海港檢疫官特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百二十號（官報　三月三十一日）

三箇年以上衞生事務ニ從事シ現ニ判任官四級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ試驗ヲ要セス文官高等

試驗委員ノ銓衡ヲ經テ臺灣總督府海港檢疫官ニ任用スルコトヲ得

○

朕臺灣總督府海港檢疫官海港檢疫醫官海港檢疫官補海港檢疫醫官補海港檢疫員海港檢疫醫員服制ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百二十一號（官報　三月三十一日）

臺灣總督府海港檢疫官海港檢疫醫官海港檢疫官補海港檢疫醫官補海港檢疫員海港檢疫醫員ノ服制ハ明治三十二年勅令第三百五十號ニ依ル

○

朕臺灣總督府海港檢疫所職員官等俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百二十二號（官報　三月三十一日）

臺灣總督府海港檢疫所職員官等俸給令

第一條　臺灣總督府海港檢疫官及臺灣總督府海港檢疫醫官ノ官等ハ高等官四等以下七等以上トシ其ノ俸給ハ臺灣總督府職員官等俸給令中第二號俸給表ニ依ル

第二條　本令ニ規定セサルモノハ臺灣總督府職員官等俸給令ニ依ル

○

朕市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

大藏大臣伯爵松方正義

内務大臣侯爵西鄕從道

文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第百二十三號（官報　三月三十一日）

市制第百二十一條第百二十二條町村制第百二十五條第百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ府縣知事ニ於テ之ヲ許可スヘシ

一　市長代理順序、町村助役定員增加、町村長町村助役有給、公告式及學務委員ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事

二　地租二分ノ一以下ノ附加稅ヲ賦課スル事

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕臨時秩祿處分調査局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百二十四號（官報　三月三十一日）

臨時秩祿處分調査局官制

第一條　臨時秩祿處分調査局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ臨時秩祿處分ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臨時秩祿處分調査局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　一人　勅任
事務官　專任二人　奏任
屬　專任五十人　判任

第三條　局長ハ大藏省勅任官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第四條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第五條　事務官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕臨時秩祿處分調査局事務官特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百二十五號（官報　三月三十二日）

滿十年以上判任文官ニ在職シ現ニ二級俸以上ノ俸給ヲ受ケ秩祿ノ事務ニ經驗アル者ニ限リ試驗ヲ要セスシテ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ臨時秩祿處分調査局事務官ニ任用スルコトヲ得

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百二十六號（官報　三月三十一日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中各省ノ部「臨時沖繩縣土地整理事務局事務官」ノ次ニ「臨時秩祿處分調査局事務官」ヲ加フ

文武高等官官等表中大藏省ノ部「臨時沖繩縣土地整理事務局事務官」ノ次四等乃至八等ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

臨時秩祿處分調査局事務官	同	上	同	上	同	上

高等文官官等相當俸給表中「臨時沖繩縣土地整理事務局事務官」ノ次ニ「臨時秩祿處分調査局事務官」ヲ加フ

○朕會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百二十七號（官報　三月三十一日）

會計規則中左ノ通改正ス

第二十五條　收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入ヲ徵收スル官吏ニ報告スヘシ

第二十六條第九十一條第九十三條第九十四條及第百十八條中「現金ヲ領收スル收入官吏」ヲ「收入官吏」ニ改ム

第二十七條中「收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歲入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納人ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシ」ヲ「歲入ヲ徵收スル官吏ニ通知スヘシ」ニ改ム

第三十條　歲入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニ據リ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條　歲入ノ事務管理廳ハ前條ノ徵收報告書ニ據リ毎月徵收總報告書ヲ作リ之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十一條ノ二　納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セサルモノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ編入スヘシ

第三十五條中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルモノハ」ニ改ム

第四十五條第一項中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル」ニ改メ第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但集合仕拂命令、金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ニ對シテハ領收證書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ

第五十二條第二項中「調定」ヲ總テ「徵收」ニ改ム

第五十七條第一項及第二項第二號ヲ左ノ如ク改ム

各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ繰越計算書ヲ作リ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第二　右定額ニ對シ既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第九十五條及第九十六條ヲ削ル

第九十七條　收入官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歲入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ歲入ヲ徵收スル官吏ハ其下檢査ヲ執行シ下檢査書ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第百二條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但保證人ノ責任ハ免除シタル保證金額ニ止ルモノトス

第百六條中「及其保證人」ヲ削ル

第百十四條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

附　則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第六十號會計規則（明治二十二年五月一日官報ニ掲載）

第二十五條　收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十七條　金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歳入ノ徴收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納人ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシ

第三十條　收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條　歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作リ之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十五條　仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ但敎人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條　金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受ケタルトキハ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第五十二條第二項

歳入ヲ調定スル官吏ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入調定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後五箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第五十七條　各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後二箇月以内ニ繰越計算書ヲ作リ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一　繰越ヲ要スル項ノ定額

第二　右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額及第四十四條ニ據リ翌年度六月三十日マテニ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第九十五條　收入官吏ハ毎年度經過後五箇月以内ニ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ歳入ノ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スヘシ

第九十六條　歳入ノ事務管理廳ノ部局長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下檢査ヲ執行シ其下檢査書ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第九十七條　現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第百二條第二項

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ通知スヘシ

第百六條　前條ノ場合ニ於テハ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辯償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第百十四條　收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

○

朕作業及鐵道會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

大藏大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵桂太郎
遞信大臣子爵芳川顯正
農商務大臣　侯爵福羽美靜

勅令第百二十八號（官報　三月三十一日）

作業及鐵道會計規則中左ノ通改正ス

第九條第二項中「確定」ヲ「徵收」ニ改ム

第二十一條第一項中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル」ニ改ム

第二十六條　歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ニ送付スヘシ

第二十七條　作業事務本局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ハ作業全部ノ徵收合計表ヲ調製シ本局及支局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ノ徵收報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十四條ヲ削ル

第四十七條　歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第四十九條中「現金ヲ出納スル場合ニ於テ」ヲ削ル

附　則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三十三號作業及鐵道會計規則（明治二十三年三月二十日）抄錄

第九條第二項

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入確定額計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以內ニ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第二十一條　金庫ハ案內仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

第二十六條　收入官吏ハ其取扱タル收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ收入官吏ハ其收入報告書ヲ翌月七日マテニ作業事務本局ノ收入官吏ニ送付スヘシ

第二十七條　作業事務本局ノ收入官吏ハ作業全部ノ收入合計表ヲ調製シ諸收入官吏ノ收入報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十四條　會計規則第九十五條ノ例ニ依リ收入官吏ノ會計檢査院ニ提出スヘキ計算書ヲ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以內トス

第四十七條　收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額ヲ登記スヘシ

第四十九條　收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏現金ヲ出納スル場合ニ於テハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

○

朕官立學校及圖書館會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

大藏大臣伯爵松方正義

文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第百二十九號（官報　三月三十一日）

官立學校及圖書館會計規則中左ノ通改正ス

第十四條第二項中「確定」ヲ「徵收」ニ改ム

第二十七條第一項中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル」ニ改ム

第二十八條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ其徴收簿ノ結果ニヨリ毎月徴收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十二條　所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作リ必要ノ參照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十八條　出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル

第四十條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

附　則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五十三號官立學校及圖書館會計規則（明治二十三年三月二十八日官報）抄錄

第十四條第二項

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入確定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以内ニ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第二十七條　金庫ハ案内仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元要高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

第二十八條　收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十二條　所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作リ必要ノ參照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第三十八條　出納官吏ニ關スル規則ハ本條第二項ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル

會計規則第九十五條ノ例ニ依リ收入官吏ノ會計檢査院ニ提出スヘキ計算書ヲ事務管理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第四十條　收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額ヲ登記スヘシ

○

朕專賣局作業會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百三十號（官報　三月三十一日）

專賣局作業會計規則中左ノ通改正ス

第三條第二項中「確定」ヲ「徴收」ニ改ム

第十四條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ其徴收簿ノ結果ニヨリ毎月徴收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ專賣局ニ送付スヘシ

專賣局ハ作業全部ノ毎月徴收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十五條　歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

附　則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二十號專賣局作業會計規則（明治三十三年二月二日官報）抄錄

第三條第二項

專賣局長又ハ專賣支局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲毎年度歳入確定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以

内ニ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第十四條　收入官吏ハ其ノ取扱タル收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月收入報告書ヲ調製シ證照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ專賣局ニ送付スヘシ

專賣局ハ作業全部ノ毎月收入總報告書ヲ調製シ證照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十五條　收入官吏ハ收入證ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ確定額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

○

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣子爵桂　太郎

御名御璽

明治三十三年三月三十日

勅令第百三十一號（官報　三月三十一日）

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第三十三條中「及軍樂隊」ヲ削ル

第三十八條中「地質ト金額トニ分チ」ヲ「現品若ハ金額ヲ以テ」ニ改ム

第四十八條中「及軍樂隊」竝第二項ヲ削ル

第五十條中「及軍樂隊」ヲ削ル

第五十四條中「及軍樂隊」竝第二項ヲ削ル

第五十六條中「及軍樂隊」ヲ削ル

第三表甲備考第一項中「短期伍長」ヲ「短期下士」ニ改ム

第十八表中「軍樂隊」ノ横畫ヲ削ル

第二十二表中馬匹飼養費月額「六圓」ヲ「八圓四十錢」ニ改ム

第二十三表中歩兵大隊ノ月額「九十四圓十五錢五厘」ヲ「八十四圓九十一錢三厘」ニ改メ軍樂隊ノ縱畫ヲ削ル

第二十四表中「東京」ノ次ニ「國府臺」「下志津」「習志野」ヲ加フ

第二十五表中「軍樂隊」ノ縱畫ヲ削ル

第二十六表中歩兵ノ縱畫ヲ左ノ如ク改メ軍樂隊ノ縱畫ヲ削ル

歩兵			
聯隊本部	八圓六十八錢八厘	八十三錢一厘	五十錢五厘
大隊	二十九圓十二錢一厘	二圓十六錢六厘	二十四十一錢八厘

第二十七表中「軍樂隊」ノ縱畫ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕陸海軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

御名御璽

明治三十三年三月三十日

勅令第百三十二號（官報　三月三十一日）

陸海軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於テハ其ノ受クヘキ

俸給額ヨリ恩給額ヲ控除シタル額ヲ支給スルモノトス

○

朕市町村立小學校教員加俸令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

文部大臣伯爵樺山資紀

明治三十三年三月三十日

勅令第百三十三號（官報　三月三十一日）

市町村立小學校教員加俸令

第一條　沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ

前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條　市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條　市町村立小學校本科教員ニシテ五箇年以上同一府縣內ノ市町村立小學校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ正教員ニ在リテハ年額二十四圓トシ准教員ニ在リテハ年額十八圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤續年數五箇年ヲ加フル毎ニ正教員ニ在リテハ年額十八圓ヲ加ヘ准教員ニ在リテハ年額十二圓ヲ加フルコトヲ得

第四條　兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以內更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以內更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條　師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス

第六條　年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキ又ハ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ヲ支給セス

第七條　市町村立尋常小學校本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給ス其ノ僻陬ノ地ニ在ル多級學校ニ勤務スル者ニハ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條　小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第九條　市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第十條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤續スル間其ノ差額ヲ加給ス

○

朕教員免許令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

勅令第百三十四號（官報　三月三十一日）

教員免許令

第一條　特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條　教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條　教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

三　破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條　教員檢定ヲ出願スル者ハ手數料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ

第七條　教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

文部大臣伯爵樺山資紀

第九條　教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手數料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條　教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條　教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第十二條　本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附　則

第十三條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

○

朕教員檢定委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第百三十五號（官報　三月三十一日）

教員檢定委員會官制

第一條　教員檢定委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ教員檢定ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條　教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　會長　一人

一　常任委員

一　主事　一人

一　臨時委員

第三條　會長、常任委員、主事及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第四條　會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ檢定ノ成績ヲ文部大臣ニ報告ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　主事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル庶務ヲ整理ス

第七條　臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ノ事ヲ掌ル

第八條　會長、常任委員、主事及臨時委員ニハ一箇年百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　教員檢定委員會ニ書記三人ヲ置キ文部省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及主事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ニハ一箇年五十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕寄附財產ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

文部大臣伯爵樺山資紀

明治三十三年三月三十日

勅令第百三十六號（官報　三月三十一日）

第一條　學校ヲ設置維持スル爲財產ヲ國府縣郡又ハ市町村ニ寄附シ學校ノ設置維持ヲ願出テタル者アルトキハ國府縣郡又ハ市町村ハ其ノ寄附財產ヲ受ケ寄附者ノ指定シタル學校ヲ設置維持スルコトヲ得

第二條　本令ニ依リ設置スル公立學校ノ會計ハ特別會計ト爲スヘシ

第三條　本令ニ依リ設置スル學校ハ寄附者ノ志望ニ依リ名稱ヲ付スルコトヲ得

第四條　本令ニ依リ設置シタル學校ノ每年度經費豫算ニ關シテハ調製前寄附者又ハ其ノ相續人ノ意見ヲ聞クヘシ

第五條　本令ニ依リ設置シタル學校ニ於テハ寄附者又ハ其ノ相續人ニ特別ノ關係アル生徒ニ對シ試驗料入學料又ハ授業料ヲ減額シ又ハ免除スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ一般會計ヨリ補足ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　國府縣郡又ハ市町村ハ本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費中職員ノ俸給ニ要スル費用ニ充ツル爲一般會計ヨリ補足ヲ爲スコトヲ得

前項ノ補足金ハ毎年度經費中寄附財産ヲ以テ支辨スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　本令ニ依リ設置シタル學校ヲ廢止シタル場合ニ於テ寄附者又ハ其ノ相續人アルトキハ殘餘財産ヲ之ニ還付スヘシ

第八條　前數條ノ規定ハ幼稚園圖書館及博物館ニ準用ス

附則

第九條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　諸學校通則ハ之ヲ廢止ス但シ同令第一條ニ依リ設置シタル學校及書籍館ハ仍一箇年以内存續スルコトヲ得

第十一條　前條但書ニ依リ存續シタル學校及書籍館ハ其ノ寄附者ニ於テ前條但書ノ期間内ニ本令ノ規定ニ依リ更ニ出願シタルトキハ繼續ト看做スコトヲ得

○

朕明治三十一年勅令第三百一號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年三月三十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百三十七號（官報　四月二日）

明治三十一年勅令第三百一號左ノ通改正ス

會計檢査院屬ハ二百十八ヲ以テ定員トス

〔參照〕

明治三十一年十二月二日勅令第三百一號ハ會計檢査院屬ハ百九十八ヲ以テ定員ト爲スノ件ナリ

○

朕明治三十年勅令第七十五號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百三十八號（官報　四月五日）

明治三十年勅令第七十五號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十年四月一日官報勅令第七十五號ハ會計檢査院二屬二十人臨時增置ノ件ナリ

○

朕稅關假置場法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月五日　　大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百三十九號（官報　四月六日）

稅關假置場法施行規則

第一條　横濱及長崎稅關管轄區域內ニ稅關假置場ヲ置ク

第二條　稅關假置場ノ地區ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第三條　貨物ノ移入申告ハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四條　稅關假置場法第五條但書ニ依リ貨物藏置期間ノ延長ヲ申請セムトスル者ハ其ノ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、延長期間及理由ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出シ特許ヲ受クヘシ

第五條　稅關假置場ハ日沒ヨリ日出マテノ間及稅關ノ休日ニハ之ヲ閉鎖ス但シ稅關長ハ臨時開場ノ特許ヲ與フルコトヲ得

第六條　日沒ヨリ日出マテノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ臨時開場ノ特許ヲ受ケムトスル者ハ必要ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第七條　第四條及第六條ノ特許ヲ受ケタル者ハ手數料ヲ納ムヘシ

第八條　稅關假置場ヲ使用スル者ハ其ノ使用料ヲ納ムヘシ

第九條　使用料及手數料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納付セムトスル者ハ納付書ニ貼付シテ之ヲ提出スヘシ

附則

本令ハ明治三十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕明治二十八年勅令第七十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十日　　內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百四十號（官報　四月十一日）

明治二十八年勅令第七十一號但書中「明治十三年第三十四號布告傳染病豫防規則第十四條」ヲ「傳染病豫防法第十八條」ニ改ム

〔參照〕

明治二十八年六月七日官報勅令第七十一號ハ傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員ニ手當支給ノ件ナリ

○

朕傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ療治料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十日

内務大臣侯爵西郷從道

勅令第百四十一號（官報　四月十一日）

明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ハ給料ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給料額ニ依リ同法別表ノ等級ニ照シ一等乃至四等ノ者ニハ一日三圓五等乃至十二等ノ者ニハ一日二圓十三等ノ者ニハ一日一圓ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ一日三圓以内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

○

朕明治十九年閣令第二十三號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西郷從道

勅令第百四十二號（官報　四月十一日）

明治十九年閣令第二十三號中准官吏ヲ削リ其ノ末項療治料定額ニ關スル規定ヲ左ノ如ク改ム

一療治料ハ高等官ニハ一日三圓判任官ニハ一日二圓ヲ給ス

〔參照〕

閣令第二十三號（明治十九年七月十三日）抄錄

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

一療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○

朕明治三十二年勅令第百五十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第百四十三號（官報　四月十一日）

明治三十二年勅令第百五十一號中左ノ通改正ス

第二條中「一人」ヲ「專任一人」ニ「五十四人」ヲ「專任六十九人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百五十一號臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件（明治三十二年四月十八日官報）抄錄

第二條　山林局專務官ハ專任三人山林局技師ハ專任二人山林局鑑定官ハ一人山林局屬及技手ハ通シテ五十四人ヲ以テ定員トス

○

朕救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十二日

内務大臣侯爵西郷從道

勅令第百四十四號（官報　四月十三日）

第一條　救育所ニ在ル孤兒ニ關シ後見人ノ職務ヲ行フ者カ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ親族會ノ同

意ヲ要スル事項ハ公設ノ救育所ニ在リテハ之ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ救育所ニ在リテハ其ノ救育所所在地ノ市町村長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　後見人ノ職務執行ニ關シ後見監督人及親族會ニ屬スル職務權限ハ公設ノ救育所ニ在ル孤兒ノ後見ニ付テハ其ノ救育所ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ救育所ニ在ル孤兒ニ付テハ其ノ救育所所在地ノ市町村長ニ屬ス

第三條　主務大臣又ハ地方長官ハ孤兒ノ後見職務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第四條　孤兒ニ非スシテ救育所ニ在ル未成年者ニ對シ後見人ノ職務ヲ行フヘキ場合ニ於テ其ノ者ノ父母ノ所在分明ナルトキハ身分ニ關スル事件ニ限リ其ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條　本令ニ規定スル市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

○

朕明治三十年勅令第百九十五號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十三日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百四十五號（官報四月十四日）

明治三十年勅令第百九十五號中第三號ヲ左ノ如ク改ム

三　自家用醬油稅

附則

本令ハ明治三十三年度ヨリ施行ス

〔參照〕

明治三十年六月二十日官報勅令第百九十五號ハ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ノ件ナリ

○

朕陸軍所屬特別文官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十三日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第百四十六號（官報四月十四日）

陸軍所屬特別文官俸給令中左ノ通改正ス

第一表中千住製絨所長ノ項一級俸ノ欄「二千圓」ヲ「二千四百圓」ニ改メ二級俸ノ欄ニ「二千二百圓」三級俸ノ欄ニ「二千圓」ヲ加フ

○

朕敍位條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百四十七號（官報　四月十六日）

叙位條例中左ノ通改正ス

第四條　凡ソ位ハ刑法其ノ他特別ノ規定ニ於テ定メラレタル場合ニ該當セサルモ有位者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ特別ノ規定ニ於テ定メラレタル場合ニ該當セサルモ有位者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ他體面ヲ汚辱スルノ行爲ヲ爲シタルトキハ位記ヲ返上セシム

〔參照〕

勅令第十號叙位條例（明治二十年五月六日官報）抄錄

第四條　凡ソ位ハ懲戒ニ因リ返上セシムルカ又ハ刑法ニ因リ公權ヲ剝奪セラルルノ外終身之ヲ有スルヲ得

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十六日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百四十八號（官報　四月十七日）

第一條　許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

二　河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三　許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

○

朕臨時工場調査ニ關スル職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

農商務大臣　曾禰荒助

勅令第百四十九號（官報　四月十七日）

工場及職工ニ關スル事項ノ調査ヲ掌理セシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

書記官　專任一人

屬　專任二人

○

朕鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十六日

農商務大臣曾禰荒助

勅令第百五十號（官報　四月十七日）

鑛業及砂鑛採取業ニ關シ左ニ掲クル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ收入印紙ヲ以テ毎件左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　採掘特許出願人變更願　金十圓
二　坑内實測圖證明請求　金十圓
三　測量認可願　金五圓
四　鑛業特許證再下付願　金五圓
五　鑛業條例第九十條ニ依ル採掘特許願　金十圓
六　鑛區圖又ハ試掘地許可圖再下付願　金五圓
七　鑛區圖又ハ試掘地許可圖修正願　金五圓
八　砂鑛採取願　金十圓
九　砂鑛採取許可地合併又ハ分割願　金五圓
十　砂鑛採取許可地增區訂正願　金十圓
十一　砂鑛採取出願中增區訂正願　金十圓
十二　砂鑛採取業讓渡願　金十圓
十三　砂鑛採取人加名願　金十圓
十四　砂鑛採取出願人變更願　金十圓
十五　砂鑛採取地許可圖再下付願　金五圓
十六　砂鑛採取地許可圖修正願　金五圓
十七　鑛山監督署長ノ判定請求　金十圓
十八　農商務大臣ノ裁定請求　金十圓

前項第八號、第十號及第十一號ノ出願ニ就キテハ河床ニ在リテハ延長二里迄毎ニ其ノ他ニ在リテハ十萬坪迄毎ニ一件分ノ手數料ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治三十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十二年一月十一日官報　勅令第四號ハ鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件ナリ

○

朕官吏遺族扶助法納金收入規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十七日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百五十一號（官報　四月十八日）

官吏遺族扶助法納金收入規則中左ノ通改正ス

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ歳入徴收官ノ計算ニ移シ直ニ報告書ヲ作リ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

〔參照〕
勅令第百二十五號官吏退族扶助法納金收入規則（明治二十三年七月十四日官報）抄錄
第二條　前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ收入官吏ヨリ金庫ヘノ拂込ニ移シテ計算シ直ニ報告書ヲ作リ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

○

朕海軍水雷術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十七日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第百五十二號（官報　四月十八日）

海軍水雷術練習所條例中左ノ通改正ス

別表中教官兼分隊長ノ部大機關士ノ下「一」ヲ「二」ニ改メ上等兵曹ノ下「五」ヲ「六」ニ上等機關兵曹ノ下「三」ヲ「四」ニ一等兵曹ノ下「十」ヲ「十二」ニ二等兵曹ノ下「十」ヲ「十二」ニ一等機關兵曹ノ下「四」ヲ「六」ニ二等機關兵曹ノ下「四」ヲ「七」ニ三等機關兵曹ノ下「三」ヲ「四」ニ一等水兵ノ下「十二」ヲ「十四」ニ二等水兵ノ下「四十五」ヲ「五十五」ニ一等機關兵ノ下「七」ヲ「九」ニ二等機關兵ノ下「十二」ヲ「十九」ニ一等主廚ノ下「三」ヲ「四」ニ二等主廚ノ下「三」ヲ「四」ニ改メ小計「二十一人」ヲ「二十二人」ニ「百四十八人」ヲ「百八十四人」ニ合計「百六十九人」ヲ「二百〇六人」ニ改ム

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ領事官職務規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月十八日

外務大臣子爵青木周藏

勅令第百五十三號（官報　四月十九日）

領事官職務規則

第一條　領事官ハ外務大臣ノ指揮監督及其ノ駐在國ニ在ル帝國公使ノ監督ヲ受クヘシ

外務大臣カ特定ノ事項ニ關シテ領事官ヲ指揮スルコトヲ其ノ駐在國ニ在ル帝國公使ニ命シタルトキハ領事官ハ該事項ニ關シテ帝國公使ノ指揮ヲ受クヘシ

第二條　領事官ハ駐在國ニ於テ日本臣民ヲ保護シ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ維持增進スヘシ

第三條　領事官ハ駐在國カ條約又ハ國際法ニ依リ帝國ニ對シテ負フ所ノ義務ノ遵守ヲ視察シ日本臣民ノ利益又ハ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ害セラレタル場合ニ於テハ駐在國ノ官廳ニ對シテ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第四條　領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル帝國軍艦ニ對シテ必要ナル幫助ヲ爲スヘシ

第五條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在ル日本臣民ノ救助又ハ取締ノ爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ

領事官ハ救助又ハ取締ノ爲必要ナルトキハ日本臣民ノ送還ヲ日本船舶ノ船長ニ命スルコトヲ得

第六條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ於テ日本臣民ノ財產又ハ遺產ノ保護管理ニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第七條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在ル日本臣民ノ名簿ヲ備ヘ居住及身分ニ關スル屆出ヲ受理シ屆出又ハ其ノ他ノ事實ニ依リテ確知シタル日本臣民ノ居住及身分ニ關スル事項ヲ該名簿ニ登錄

スヘシ

第八條　領事官ハ其ノ駐在國ニ在ル日本船舶及其ノ船員ニ對シテ必要ナル保護及取締ヲ爲スヘシ

第九條　領事官ハ帝國軍艦其ノ他日本船舶ノ乘組員カ脫船シタルトキハ艦長又ハ船長ノ請求ニ因リ脫船者ヲ復役セシムル爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第十條　領事官ハ其ノ駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發シタル文書ノ眞正ヲ證明スルコトヲ得

第十一條　領事官ハ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ其ノ職務上取扱フヘキ事項及職務ヲ行フ際知リ得タル事實ノ認證ヲ爲スコトヲ得

第十二條　領事官ハ日本臣民ニ旅券ヲ付與シ又ハ其ノ旅券ヲ査證スルコトヲ得

領事官ハ日本ニ旅行セムトスル外國人ノ申請ニ因リ其ノ旅券ヲ査證スルコトヲ得

第十三條　領事官ハ其ノ管轄區域內ニ於テ日本臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ日本臣民又ハ日本ニ在ル土地ニ關スル法律行爲ニ付公證ヲ爲スコトヲ得

第十四條　領事官ハ日本臣民相互ノ間又ハ日本臣民及外國人ノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ和解ヲ爲サシメ又ハ仲裁ヲ爲スコトヲ得

第十五條　條約又ハ慣例ニ依リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ其ノ所管事務ニ付命令ヲ發スルコトヲ得

領事官ノ發スル命令ニハ十圓以內ノ罰金又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

領事官ノ發スル命令ノ公布ニ關スル規程ハ領事官之ヲ定ム

第十六條　外務大臣ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ其ノ取消ヲ命スルコトヲ得

領事官ノ駐在國ニ在ル帝國公使ハ領事官ノ發シタル命令ニシテ條約若ハ法令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ其ノ施行停止ヲ命スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ外務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ施行停止ハ三箇月ヲ經過スルトキハ其ノ效ヲ失フ

第十七條　領事官ハ其ノ職務上必要アルトキハ帝國軍艦ニ幫助ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　領事官ハ其ノ職務上ノ事項ニ付外務大臣ニ報告スヘシ

第十九條　領事官ハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ得タル場合ノ外帝國ノ他ノ官廳又ハ公署ト直接通信ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　領事官ノ徵收スル手數料及出張費用ニ關スル規程ハ外務大臣之ヲ定ム

第二十一條　名譽領事及貿易事務官ハ外務大臣ノ訓令ニ基キ本令其ノ他領事官ノ職務ニ關スル法令及條約ノ規定ニ準依シテ其ノ職務ヲ行フ

第二十二條　本令ノ施行期日ハ外務大臣之ヲ定ム

第二十三條　日本帝國領事規則及明治二十三年勅令第二百五十八號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十三年十月二十日官報勅令第二百五十八號ハ領事手數料及出張入費ハ大藏大臣定ムル所ノ換算相場ニ依リ外國貨幣ヲ以テ納入スルコトヲ得ルノ件ナリ

○

朕臺灣總督府燈臺所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十日

勅令第百五十四號（官報　四月二十一日）

臺灣總督府燈臺所官制中左ノ通改正ス

第五條中「七人」ヲ「九人」ニ改ム

第六條中「二十八人」ヲ「三十四人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第九十六號臺灣總督府燈臺所官制（明治二十九年三月三十一日官報）抄錄

第五條　所長ハ各所ヲ通シテ七人ヲ以テ定員トス

第六條　看守ハ各所ヲ通シテ二十八人ヲ以テ定員トス

○

朕明治三十三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十三日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百五十五號（官報　四月二十四日）

明治三十三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途左ノ通之ヲ定ム

退官賜金
死亡賜金
死傷手當
賠償及訴訟費
官吏療治料
外務本省及在外公館電信料
在外地所家屋公課
在外國難民貸與金

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西郷從道

阿片費
衛生試驗所依頼試驗用諸費
衛生試驗所印紙製造費
血清調製及配送費
痘苗調製及配送費
船舶檢疫費
巡査看守守衛及警査給助
巡査及看守滿年賜金
囚徒及在監人諸費
北海道請願巡査費
北海道戸長一時賜金
褒賞恩賜及救助費
徽兵參事員手當
徽兵參事員及入營附添人旅費
徽兵檢丁及新兵旅費
刑事被告人犯罪人護送押送及留置諸費
海員取扱費
北海道沖繩縣及小笠原島傳染病豫防費
府縣傳染病豫防費補助
小學校教員恩給補充費
警察費連帯支辨金
度量衡檢定出張旅費
文官恩給
軍人恩給
學校職員恩給
沖繩縣僧侶飯米代
帝國議會議長副議長議員歳費及旅費
貴族院及衆議院議案類印刷費
從價稅品買上代
收容貨物及無請求品費
所得稅調査費
國稅事務取扱市町村交付金
國稅滯納國稅犯則及葉煙草專賣法違犯者處分費
印紙鑑札類諸費
臺灣國庫金遞送費
貨幣交換差金
仕拂命令及保管金引出切符用紙製造費
公債證書製造及在外公債取扱費

諸拂戻及缺損補塡金
製造煙草輸出交付金
日本勸業銀行補助
罹災救助基金補助
埋葬金
糧米扶助米代及鹽茶料
糧食品購買費
軍馬飼養品費
供奉費
臺灣匪徒鎭定費
海軍定期職工滿期賜金
海軍遭難服裝手當
海軍依託患者費
海軍志願兵家族扶助金
司法及行政裁判臨檢旅費
執達吏補助費
密輸出入申告者給與及違犯密告手當
裁判費
登記用紙及公告費
萬國測地學協會費
中央氣象臺委託電報料
萬國度量衡會費
官林被害諸費
蠶種檢査費補助
萬國郵便電信聯約費
郵便切手類費
爲替貯金受拂費
切手貯金拂込金
電信取扱手數料
船舶檢査審判臨檢旅費
海員審判費
難破船費
航海奬勵費
造船奬勵費
日本鐵道株式會社利益不足補給
山陽鐵道株式會社補助
臺灣看守俸給及月手當
臺灣看守被服及帶具費

臺灣製鹽買收費
官報遞送費
葉煙草運搬及保管費
葉煙草賠償及購買費

○

朕都督部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十四日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第百五十六號（官報四月二十五日）

都督部條例

第一條　都督部ハ之ヲ東京ニ置キ其所管區分左ノ如シ
東部都督部　第一、第二、第七及第八師管
中部都督部　第三、第四、第九及第十師管
西部都督部　第五、第六、第十一及第十二師管

第二條　都督ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ天皇ニ直隸シ所管ノ防禦計畫ニ任シ又國防ノ事ニ參與ス但シ防禦計畫ニ關シ特ニ規定アルモノハ此限ニアラス

第三條　都督ハ勅ヲ奉シ團隊ノ檢閲ヲ行フ

第四條　都督ハ勅ヲ奉シ二師團以上ノ演習ヲ統監シ又ハ特別大演習ノ一軍ヲ指揮ス

第五條　都督ハ主任ノ事ニ關シ所管内ノ各師團長ニ訓令若クハ訓示ヲ與ヘ且必要ノ報告ヲ爲サシムルヲ得

第六條　都督ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、防禦計畫ニ關シテハ參謀總長ノ區處ヲ受ク

第七條　都督部ニ幕僚ヲ置キ之ヲ參謀部副官部ニ分ツ

第八條　參謀長ハ都督ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第九條　幕僚ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス

○

朕教育總監部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十四日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第百五十七號（官報　四月二十五日）

教育總監部條例

第一條　教育總監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍全般教育ノ齊一進歩ヲ規畫スル所トス

第二條　教育總監ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ天皇ニ直隷ス

第三條　教育總監ハ各兵監ヲ統督シ陸軍砲工學校陸軍士官學校陸軍中央幼年學校陸軍地方幼年學校陸軍戸山學校竝ニ陸軍將校生徒試驗委員ヲ管轄ス

第四條　教育總監部ニ幕僚及騎砲工輜重兵監部ヲ置ク

第五條　參謀長ハ教育總監ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第六條　幕僚將校及軍吏ハ參謀長ノ下ニ在リテ事務ニ服ス

第七條　騎兵監ハ各騎兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍騎兵實施學校ヲ管轄ス

第八條　野戰砲兵監ハ各野戰砲兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス

第九條　要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射擊學校ヲ管轄ス

第十條　工兵監ハ各工兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル

第十一條　輜重兵監ハ各輜重兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル

第十二條　野戰砲兵監、要塞砲兵監及工兵監ハ砲工學校ヲ巡閲シ各本科學生ノ教育上ニ就キ意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ

第十三條　各兵監ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ依リ臨時ニ當該兵團隊ノ檢閲ヲ行フ

第十四條　各兵監部部員ハ各其兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス

第十五條　教育總監部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○

朕陸軍兵器監部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十四日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第百五十八號（官報　四月二十五日）

陸軍兵器監部條例

第一條　陸軍兵器監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ兵器ニ關スル一切ノ經理ヲ掌リ兵器ノ檢査ヲ行フ所トス

第二條　兵器監部ニ左ノ職員ヲ置ク

兵器監

部員

檢査官

軍吏

右ニ掲クル職員ノ外准士官、下士及判任文官ヲ置ク

第三條　兵器監ハ陸軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理シ砲兵工廠及陸軍兵器廠ヲ統轄シ兵器ニ關スル一切ノ經理ニ任ス

第四條　兵器監ハ兵器ノ改良ニ關シ必要ト認ムル事件ハ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス

第五條　兵器監ハ各部隊ニ於ケル兵器ノ檢査ヲ行フ但シ本條ノ檢査ハ部員ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第六條　部員ハ兵器監ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第七條　檢査官ハ砲兵工廠ニ在勤シ兵器監ノ命ヲ受ケ軍用製作品ノ檢査ニ任シ又同工廠外ノ製造所ニ兵器ノ製作ヲ命スルトキハ之ニ派出シ其ノ檢査監督ニ從事スルコトアルヘシ

檢査部附准士官、下士及判任文官ハ砲兵工廠ニ在勤シ檢査官ノ命ヲ受ケ檢査ニ從事ス

第八條　軍吏ハ高級部員ノ監督ヲ受ケ會計事務ニ服ス

○

朕砲兵工廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十四日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第百五十九號（官報　四月二十五日）

砲兵工廠條例

第一條　砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器ヲ製造修理シ及海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所トス

第二條　砲兵工廠ハ之ヲ東京、大阪及臺北ニ置ク

東京及大阪砲兵工廠ニ在リテハ製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠

小銃製造所

銃包製造所

砲具製造所
目黒火藥製造所
板橋火藥製造所
岩鼻火藥製造所
大阪砲兵工廠
火砲製造所
砲架製造所
彈丸製造所
火具製造所
宇治火藥製造所
門司兵器製造所

第三條　陸軍兵器支廠所在地ニハ所要ニ應シ砲兵工廠ノ派出所ヲ置キ陸軍兵器支廠長ヲシテ其ノ業務ヲ管掌セシム但シ其ノ位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク但シ臺北砲兵工廠ニ在リテハ製造所長、所員及技師ヲ置カス

提理
廠員
製造所長
所員
軍醫

軍吏
技師

右ニ掲クル職員ノ外准士官、下士及判任文官ヲ置ク

第五條　提理ハ兵器監ニ隸シ工廠ノ業務ヲ總理シ且ツ工廠ノ建築ニ關スル事項ヲ管掌ス
東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學校ヲ管理ス
臺北砲兵工廠提理ハ戰時若ハ事變ニ際シテハ臺灣總督ノ命ヲ受クルコトアルヘシ

第六條　廠員ハ提理ノ命ヲ受ケ廠務ヲ分擔ス

第七條　製造所長ハ提理ニ隸シ製造所ノ業務ヲ擔任シ所員ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ服ス
東京砲兵工廠製造所長ハ前項ノ外砲兵工科學校ノ實業教授ヲ擔任ス

第八條　軍醫、軍吏、技師ハ各分擔ノ事務ニ服ス

第九條　派出所ニハ陸軍屬ヲ分遣シ陸軍兵器支廠長ノ命ヲ受ケ兵器ノ製造修理ニ關スル費用及材料素品ノ出納ヲ掌ラシム

第十條　軍用制式ノ兵器ハ陸軍所要ノ爲メ製造スルモノヽ外兵器監ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但シ陸軍砲工兵會議ヨリ試驗用ノ爲メ要求スルモノ竝海軍所要ノ火藥火具ハ此ノ限ニアラス

第十一條　官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依賴スルトキハ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得

第十二條　砲兵工廠附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ提理ヨリ衞戍司令官ニ衞兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得但シ遠隔セル製造所ニ在リテハ所長ヨリ直ニ衞戍司令官ニ衞兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得

○

朕陸軍兵器廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十四日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第百六十號（官報　四月二十五日）

陸軍兵器廠條例

第一條　陸軍兵器廠ハ兵器ノ購買、貯藏、保存、修理、支給、交換及要塞ノ備砲工事ヲ掌ル所トス

第二條　兵器廠ハ兵器本廠、兵器支廠及兵器分廠ヨリ成ル

兵器本廠ハ東京、大阪、門司及臺北ニ置キ兵器支廠ヲ統轄ス其ノ所管區域左ノ如シ

東京兵器本廠　第一、第二、第七及第八師管

大阪兵器本廠　第三、第四、第九及第十師管

門司兵器本廠　第五、第六、第十一及第十二師管

臺北兵器本廠　臺灣

第三條　師團司令部、臺灣守備混成旅團司令部竝要塞ノ所在地（臺北ヲ除ク）ニ兵器支廠ヲ置ク其ノ他樞要ナル衞戍地ニ兵器分廠ヲ置キ兵器支廠ノ管轄トス

要塞所在地兵器支廠ハ三等ニ區分ス

兵器支廠ノ等級竝兵器分廠ノ位地ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　兵器廠ニ左ノ職員ヲ置ク

兵器本廠
本廠長
廠員
軍吏

兵器支廠
支廠長
廠員
軍吏

右ニ掲クル職員ノ外兵器本支廠ニ准士官、下士及技手ヲ置キ兵器分廠ニ下士ヲ置ク但シ兵器分廠附下士ニ在リテハ所在地隊附下士ヲシテ其ノ業務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第五條　本廠長ハ兵器監ニ隷シ兵器廠ノ事務ヲ總理ス

臺北兵器本廠長ハ職時若ハ事變ニ際シテハ臺灣總督ノ命ヲ受クルコトアルヘシ

第六條　支廠長ハ本廠長ニ隷シ兵器支廠ノ事務ヲ管理ス

支廠長ハ所在地砲兵工廠派出所ノ事業ヲ管掌シ其ノ業務竝經理ニ關シテハ當該砲兵工廠提理ノ區處ヲ受ク

支廠長ハ師團、臺灣守備混成旅團及要塞ノ兵器ニ就テハ當該師團長、混成旅團長及要塞司令官ノ命ヲ受ク

臺北ニ在リテハ支廠長ノ職務ハ臺北兵器本廠長之ヲ兼掌ス

第七條　廠員及軍吏ハ當該本支廠長ノ命ヲ受ケ各分擔ノ事務ニ服ス

第八條　兵器分廠附下士ハ支廠長ノ統轄ニ屬スト雖トモ其ノ職務ニ就テハ尚所在地衞戍司令官ノ監督ヲ受ク

第九條　兵器廠保管ノ武器庫、彈藥庫、器具庫及材料庫ニハ衞兵ヲ置ク但シ衞兵ヲ必要トセサルトキハ本廠長ハ衞戍司令官ノ同意ヲ得テ之ヲ置カサルコトヲ得

前項ノ外武器庫、彈藥庫、器具庫及材料庫ニハ下士又ハ定番人ヲ置クコトヲ得

新ニ衞兵ヲ置クトキハ本廠長又ハ支廠長ヨリ該地衞戍司令官ニ請求スルモノトス

要塞備附ノ兵器ハ砲臺監守ヲシテ之ヲ監守セシム

附　則

第十條　當分ノ內藝豫要塞所在地ノ兵器支廠ハ大阪兵器本廠ノ管轄トス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ各省官制通則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
內務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第百六十一號（官報　四月二十七日）

各省官制通則中左ノ通改正ス

第九條中「次官」ヲ「總務長官」ニ改ム

第十條　各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ關スル事項

二　官吏ノ進退身分ニ關スル事項

三　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得

陸軍省海軍省ニ於テハ本條第二項第二ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十一條　各省ニ總務局ヲ置ク

總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項

文部大臣伯爵樺山資紀
外務大臣子爵青木周藏
遞信大臣子爵芳川顯正
海軍大臣　山本權兵衞
司法大臣　清浦奎吾
農商務大臣　曾禰荒助

二　統計報告ノ調製ニ關スル事項
三　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
四　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項
五　會計ノ監査ニ關スル事項
六　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
七　其ノ他各省官制ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムル事項

陸軍省海軍省ニ於テハ前項第四乃至第六ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十四條　各省ニ左ノ職員ヲ置ク

總務長官
官房長
局長
參事官
祕書官
書記官
屬

第十五條　各省總務長官ハ一人勅任トス

第十六條　總務長官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督シ及總務局ノ事務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十七條　各省官房長ハ一人勅任トス

第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十七條ノ二　官房長ハ機務ヲ管掌シ及大臣官房ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條中「立案ヲ掌ル」ノ下ニ「但シ其ノ中一人ハ勅任ト爲スコトヲ得」ヲ加フ

第二十三條第二項中「八人」ヲ「九人」ニ「十二人」ヲ「十四人」ニ改ム

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百二十二號各省官制通則（明治二十六年十月三十一日官報抄錄）

第九條　各省大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ內閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外其ノ職務ヲ臨時次官ニ代理セシムルコトヲ得

第十條　各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ關スル事項
二　官吏ノ進退身分ニ關スル事項
三　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
四　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
五　統計報告ノ調製ニ關スル事項
六　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
七　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項
八　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
九　其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

陸軍省海軍省ニ於テハ前項第七第八ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十一條　各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得

第十四條　各省ニ左ノ職員ヲ置ク

次官
參與官
局長
參事官
祕書官
書記官
屬

第十五條　各省次官ハ一人勅任トス
第十六條　次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス
第十七條　各省參與官ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ省務ニ參與ス
第十九條　參事官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ管議立案ヲ掌ル
第二十三條第二項
各省事務參事官事務書記官ハ併セテ八人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム但シ內務省大藏省及遞信省ニ於テハ十二人以下ヲ置クコトヲ得

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ內閣書記官長及各省官房長ノ任用及分限ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百六十二號（官報　四月二十七日）

內閣書記官長及各省官房長ノ任用及分限ニ付テハ文官任用令及文官分限令ノ規定ヲ適用セス

○

朕內務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百六十三號（官報　四月二十七日）

內務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「內務大臣ハ」ノ下ニ「神社」ヲ加ヘ「社寺」ヲ「宗敎」ニ「版權」ヲ「著作權」ニ改ム

第四條中「六局」ヲ「七局」ニ改メ地方局ノ前ニ神社局ヲ加ヘ「社寺局」ヲ「宗敎局」ニ改ム

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二　神社局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　神宮、官國幣社、府縣鄕村社、招魂社其ノ他總テ神社ニ關スル事項
二　神官及神職ニ關スル事項

第六條中「版權登錄」ヲ「著作權」ニ改ム

第九條　宗敎局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　神佛各派、寺院、宗敎ノ用ニ供スル堂宇其ノ他總テ宗敎ニ關スル事項
二　僧侶及敎師ニ關スル事項

第十二條第三項中「二百人」ヲ「二百九人」ニ改ム

〔參照〕

・勅令第二百五十九號內務省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄

第一條　內務大臣ハ地方行政、議員選擧、警察、監獄、土木、衛生、地理、社寺、出版、版權、賑恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ臺灣總督、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス

第九條　社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ司ル

一　神宮、官國幣社、招魂社並神社社格及古社寺保存ニ關スル事項

二　神佛各派ノ教規、宗制、神職僧侶教師ノ身分、社寺及宗教ノ用ニ供スル堂宇ノ存廢其ノ他總テ宗教ニ關スル事項

第十二條第三項

內務省屬ハ二百人ヲ以テ定員トス

○

朕造神宮使廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

內務大臣侯爵西鄕從道

造神宮使廳官制中左ノ通改正ス

第五條中「社寺局長」ヲ「神社局長」ニ改ム

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百六十五號（官報四月二十七日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中內務省ノ部二等ノ欄「內務省參與官」ノ次ニ「神社局長」ヲ加ヘ「社寺局長」ヲ「宗教局長」ニ改ム

○

朕內務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百六十六號（官報四月二十七日）

內務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「監獄」ヲ削ル

第四條中「七局」ヲ「六局」ニ改メ「監獄局」ヲ削ル

第十條　削除

第十一條　削除

第十二條中「二百九八」ヲ「二百三八」ニ改ム

附　則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百五十九號內務省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄

第十條　監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　監獄ニ關スル事項

二　假出獄及監視假免ニ關スル事項

第十一條　內務省ニ專任監獄事務官一人ヲ置ク奏任トス監獄局ニ屬シ監獄ノ事務ヲ掌ル

○

朕司法省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

司法大臣　清浦奎吾

勅令第百六十七號（官報　四月二十七日）

司法省官制中左ノ通改正ス

第一條　司法大臣ハ裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ民事、刑事、非訟事件、戶籍、監獄及出獄人保護ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス

第三條　司法省專任參事官ハ二人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條　司法省ニ左ノ二局ヲ置ク

民刑局

監獄局

第五條　民刑局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　民事、刑事及非訟事件ニ關スル事項

二　裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項

三　戶籍ニ關スル事項

第六條　監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　監獄ニ關スル事項

二　恩赦、復權、假出獄、免幽閉、監視假免、出獄人保護及死刑執行ニ關スル事項

第七條　司法省ニ專任監獄事務官二人ヲ置キ奏任トシ監獄局ニ屬シ監獄ノ事務ヲ掌ル

第七條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第八條　司法省屬ハ百三人ヲ以テ定員トス

第九條　司法省ニ專任技師二人專任技手六人ヲ置ク

附　則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百四十三號司法省官制（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第一條　司法大臣ハ各裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦復權及戶籍ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス

第三條　司法省專任參事官ハ二人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス
第四條　司法省ニ民刑局ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
一　民事、刑事及其ノ他ノ法律命令ニ關スル事項
二　裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項
三　恩赦復權及戸籍ニ關スル事項
第六條　司法省國ハ七十八人ヲ以テ定員トス
第七條　司法省ニ專任技師一人專任技手四人ヲ置ク

○

朕集治監假留監官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道
司法大臣　清浦奎吾

勅令第百六十八號（官報四月二十七日）

集治監假留監官制中左ノ通改正ス

集治監假留監官制中「内務大臣」ヲ「司法大臣」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道
司法大臣　清浦奎吾

勅令第百六十九號（官報四月二十七日）

警視廳官制中左ノ通改正ス

第四條第二項、第六條、第十條及第十一條中「内務大臣」ヲ「主務大臣」ニ改ム

第二十七條第二項及第二十八條中「内務大臣」ヲ「司法大臣」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道
司法大臣　清浦奎吾

勅令第百七十號（官報　四月二十七日）

地方官官制中左ノ通改正ス

第四條第二項中「內務大臣」ヲ「主務大臣」ニ改ム

第三十六條中「內務大臣」ヲ「司法大臣」ニ改ム

附　則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕高等官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百七十一號（官報　四月二十七日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中內務省ノ部二等ノ欄「監獄局長」、四等乃至八等ノ欄「監獄事務官」ヲ創リ司法省ノ部二等ノ欄民刑局長ノ次ニ「監獄局長」、四等乃至八等ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄事務官	同上	同上	同上

附　則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕監獄則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

內務大臣侯爵西鄕從道

司法大臣　清浦奎吾

勅令第百七十二號（官報　四月二十七日）

監獄則中左ノ通改正ス

監獄則中「內務大臣」ヲ「司法大臣」ニ改ム

附　則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕明治三十三年法律第七十五號及同年法律第七十六號ニ依ル風土病及流行病ノ種類指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年四月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百七十三號（官報　四月二十七日）

明治三十三年法律第七十五號第四條及同年法律第七十六號第四條ニ依ル風土病及流行病ハ左ノ十五種トス

痲刺利亞	猩紅熱
脚氣	發疹窒扶私
ペスト	回歸熱
痘瘡	實布垤利亞
痲疹	腸窒扶私
	虎列刺
	霍亂
	赤痢
	流行性腦脊髓膜炎
	流行性感冒

（參照）

明治三十三年三月三十一日官報　法律第七十五號ハ臺灣ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件同第七十六號ハ臺灣ニ服役スル軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件ナリ

内務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂　太郎
海軍大臣　山本權兵衛

○

朕裁判所及臺灣總督府法院共助ニ關スル費用及囚人刑事被告人押送ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十四日

内務大臣侯爵西鄕從道
司法大臣　清浦奎吾

勅令第百七十四號（官報　五月十五日）

第一條　裁判所及臺灣總督府法院間ニ於ケル共助ニ關スル費用ハ囑託ヲ受ケタル裁判所又ハ臺灣總督府法院ニ於テ之ヲ支出シ互ニ其ノ計算ヲ爲サス

第二條　囚人及刑事被告人ノ押送ニ關スル手續ハ押送地ノ規定ニ依ル

第三條　囚人及刑事被告人ノ押送ニ關スル費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ支辨トス但シ内地及臺灣間ニ於ケル航海中ノ押送費用ハ國庫ノ負擔トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕宅地組換ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十四日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百七十五號（官報　五月十五日）

左ノ地方ニ於ケル市街宅地ヲ組換ヘ郡村宅地トス將來新ニ宅地トナルモノモ亦郡村宅地トス

長崎縣

東彼杵郡佐世保村横尾免、熊ケ倉免、山中免、庵浦免、赤崎免ノ内字清水ノ久保、川内、松永原、神山、カリマタ、浦ノ中、鍛冶屋谷、上天石、コヲズ石、ハス岩、トウボシ田及其各字以西、以南ノ各字、中通免ノ内字大谷、草木原、光波江、登立、野中、開田、蘇、植松、中瀬戸、下瀬戸及其各字以北、以西ノ各字、折橋免ノ内字開原、岳、澤瀾、高平、本保及其各字以北、以東ノ各字、名切免ノ内字黒田、原、德保谷及其各字以東ノ各字、小佐世保免ノ内字タカナシ、炭釜、稗田、春田、天久保、前田、松ノ平及其各字以東ノ各字

新潟縣

南蒲原郡一ノ木戸村大字田島ノ内字中村、松橋、牛捨場、與野、道下

刈羽郡枇杷島村大字枇杷島ノ内字穴ケ入、岩ノ原、西方寺、田屋ノ下

中頸城郡高田町大字藪野新田、木田新田及大字藪野新田ニ介在スル大字關ニ屬スル部分

埼玉縣

大里郡熊谷町大字石原（字町、町上、甲町裏、乙町裏ヲ除ク）、大字熊谷ノ内字は通、に通、ほ通、と通、ち通、り通、ぬ通、る通、を通、わ通、よ通、ゐ通、れ通、そ通、つ通、ね通、お通、ら通、む通、う通、の通、く通、や通、ま通

栃木縣

下都賀郡栃木町大字栃木城内（字本町、大和、觀堂ヲ除ク）、沼和田（字河合町、新田前、曲リ松、五反田ヲ除ク）、小平柳（字嘉右衛門町裏、大道ヲ除ク）、片柳（字湊、境ノ内、白旗ヲ除ク）

秋田縣

由利郡本荘町大字石脇（字石脇ヲ除ク）

河邊郡牛島町大字牛島（字牛島ヲ除ク）

岡山縣

淺口郡玉島町大字上成、大字玉島ノ内字押上土取場、中瀾一丁目、中瀾二丁目、中瀾三丁目、中瀾大道北、丸川南、鯉ノ頭、十六割、川中大道西及其各字以東ノ各字、大字阿賀崎ノ内字川田、七丁目、六丁目、五丁目、四丁目、六丁須、八丁須、竹水尾、久々井、庭瀾及其各字以西、以北ノ各字

都窪郡倉敷町ノ内字日間道ノ上、蛭池ノ西、蛭池ノ上、姥ケ懐東谷、姥ケ懐西谷、三本松西裏、三本松南裏、柳ケ坪、山ノ神、清水道ヨリ上、丙辰新田、西古開及其各字以南ノ各字

小田郡笠岡町大字富岡、大字笠岡ノ内字大磯、宮地、小丸南平、狼、大久保、田頭及其各字以北ノ各字

和歌山縣

東牟婁郡新宮町ノ内字左指ケ鼻、魚澤、西道、蘭澤、永山、野田、徐福、鍋倉、内ケ坪、下熊野、清水元、丸山、下田、日日、砂羅、石ケ坪、大平見、水坪、鴻田、南谷、松山、梅木、廣角、大峪、檜山

○

朕第五回内國勧業博覧會開設ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第百七十六號（官報　五月十六日）

第五回内國勸業博覽會ヲ明治三十六年三月一日ヨリ同年七月三十一日迄大阪府大阪市南區天王寺今宮ニ開設ス

○

朕遞信省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百七十七號（官報　五月十六日）

遞信省官制中左ノ通改正ス

第二條中「九人」ヲ「十人」ニ改ム

第八條中「二十三人」ヲ「二十七人」ニ改ム

第九條中「二百五十人」ヲ「二百六十九人」ニ改ム

第十條中「五十七人」ヲ「七十二人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百九十五號遞信省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄

第二條　遞信省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第八條　遞信省ニ專任技師二十三人ヲ置ク但シ内三人以内ヲ勅任トス

第九條　遞信省關ハ二百五十人ヲ以テ定員トス

第十條　遞信省ニ專任技手五十七人ヲ置ク

○

朕郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百七十八號（官報　五月十六日）

郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員中左ノ通改正ス

第一條中通信事務官ノ下「專任二十四人」ヲ「專任二十六人」ニ通信事務官補ノ下「專任二十七人」ヲ「專任三十一人」ニ通信技師ノ下「專任二十三人」ヲ「專任三十三人」ニ通信書記ノ下「專任三千七十七人」ヲ「專任三千五百二十三人」ニ通信技手ノ下「專任三百四十人」ヲ「專任四百二十八人」ニ通信書記補ノ下「專任四千七百八人」ヲ「專任五千二百九十四人」ニ改ム

○

朕東京郵便電信學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百七十九號（官報　五月十六日）

東京郵便電信學校官制中左ノ通改正ス

第五條中「八人」ヲ「九人」ニ改ム

第七條中「六人」ヲ「七人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百五十四號東京郵便電信學校官制（明治二十四年七月二十七日官報）抄錄

第五條　教授ハ奏任トシ專任八人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條　書記ハ判任トシ六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

○

朕航路標識管理所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十號（官報　五月十六日）

航路標識管理所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十四人」ヲ「二十六人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百五十四號航路標識管理所官制（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第六條　技手ハ二十四人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ從事ス

○

朕海事局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十一號（官報　五月十六日）

海事局官制中左ノ通改正ス

第四條中海事官ノ下「專任四十六人」ヲ「專任四十九人」ニ書記ノ下「專任三十二人」ヲ「專任三十五人」ニ技手ノ下「專任二十七人」ヲ「專任三十三人」ニ改ム

○

朕海員審判所職員定員及任用令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十二號（官報　五月十六日）

海員審判所職員定員及任用令中左ノ通改正ス

第三條第四項中「書記ハ判任トシ」ノ下ニ「中三名ハ」ヲ加フ

第四條第四項中「書記ハ判任トシ」ノ下ニ「中十二名ハ」ヲ加フ

第五條中「明治二十六年勅令第百八十三號文官任用令第二條」ヲ「文官任用令第二條」ニ改ム

〔參照〕
勅令第七十八號海員審判所職員定員及任用令（明治三十年四月十日官報）抄錄
第三條第四項
高等海員審判所書記ハ判任トシ遞信屬又ハ海事局書記ヲシテ之ヲ兼ネシム
第四條第四項
地方海員審判所書記ハ判任トシ海事局書記ヲシテ之ヲ兼ネシム

○

朕港務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十三號（官報　五月十六日）

港務局官制中左ノ通改正ス

第二條中局長ノ下「三人」ヲ「四人」ニ港務官ノ下「專任三人」ヲ「專任四人」ニ書記ノ下「專任十二人」ヲ「專任十六人」ニ技手ノ下「專任三人」ヲ「專任四人」ニ港吏ノ下「專任六人」ヲ「專任八人」ニ港吏補ノ下「專任三十人」ヲ「專任四十人」ニ改ム

第十條　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ開港港則ヲ施行スル開港ニ港務局支局ヲ置クコトヲ得

港務局支局ニ支局長ヲ置キ港長ノ事ヲ行ハシメ港務官ヲ以テ之ニ充ツ

第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十一條　港務局港務局支局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

〔參照〕
勅令第百五十二號港務局官制（明治三十一年七月十五日官報）抄錄
第十條　港務局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百八十四號（官報　五月十六日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中各省ノ部長崎港務局長ノ項ヲ左ノ如ク改ム

長崎港務局長	一級俸二千圓	二級俸千八百圓
門司港務局長	三級俸千六百圓	四級俸千四百圓

同條第二項中「長崎港務局長」ノ下ニ「門司港務局長」ヲ加フ

○

朕鐵道作業局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十五號（官報　五月十六日）

鐵道作業局官制中左ノ通改正ス

第二條中鐵道事務官ノ次ニ「鐵道事務官補」ヲ加フ

第六條中「十八人」ヲ「十九人」ニ改ム

第六條ノ二　鐵道事務官補ハ專任十一人奏任トス　各部ニ分屬シテ部務ヲ掌ル

第七條中「五十九人」ヲ「七十六人」ニ改ム

第八條中「八百五十三人」ヲ「九百九十九人」ニ改ム

第九條中「三百五十人」ヲ「四百九人」ニ改ム

第十條中「五百七十人」ヲ「六百八十四人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百六十八號鐵道作業局官制（明治三十年八月十八日官報）抄錄

第六條　鐵道事務官ハ專任十八人奏任トス各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル

第七條　鐵道技師ハ專任五十九人ヲ以テ定員トシ內三人以內ヲ勅任トス

第八條　鐵道書記ハ八百五十三人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　鐵道技手ハ三百五十人ヲ以テ定員トス

第十條　鐵道書記補ハ五百七十人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

○

朕高等官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十五日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百八十六號（官報　五月十六日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中各省ノ部林野整理局監督官補ノ次ニ「鐵道事務官補」ヲ加フ

文武高等官官等表中遞信省ノ部通信事務官ノ次六等乃至九等ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

鐵道事務官補	同	上	同 上

高等文官官等相當俸給表中林野整理局監督官補ノ次ニ「鐵道事務官補」ヲ加フ

○

朕遞信省外國留學生規程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十六日

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十七號（官報　五月十七日）

遞信省外國留學生規程中左ノ通改正ス

第四條第一項中「英貨百八拾磅」ヲ「千八百圓」ニ改メ第二項中「一箇年英貨六拾磅以內」ヲ「相當」ニ改ム

第五條第一項中「最下額」ヲ「判任官ニ準シ之」ニ改ム

第六條　在官者ニシテ外國留學ヲ命セラレタル者ハ本邦發程ノ日ヨリ歸朝ノ日迄當該官廳定員ノ外ニ置キ本官ノ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ特ニ俸給三分ノ一以內ヲ支給スルコトヲ得

附則

本令施行前ニ外國留學ヲ命セラレタル者ニシテ特ニ公務取調ヲ命セラレタル者ニハ其ノ歸朝ノ日

迄俸給全額ヲ支給スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第百三十四號遞信省外國留學生規程（明治三十年四月三十日官報）抄錄

第四條　遞信省外國留學生ノ學費金ハ一箇年英貨百八拾磅以内トス

留學中各地巡歷研究ノ必要アルトキハ一箇年英貨六拾磅以内ノ學費ヲ增給スルコトヲ得

第五條　遞信省外國留學生ノ旅費ハ外國旅費規則ニ依リ最下額ヲ支給ス　在官者ニシテ外國留學ヲ命セラレタル者特ニ公務取調ヲ命セラレタルトキハ其ノ官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第六條　在官者ニシテ外國留學ヲ命セラレタル者ニハ本邦發程ノ日ヨリ歸朝ノ日マテ本官ノ俸給ヲ支給セス但シ特ニ公務取調ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニアラス

○

朕北海道ニ於ケル砂金採取者臨時取締ニ要スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十七日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百八十八號（官報　五月十八日）

北海道ニ於ケル砂金採取者臨時取締ノ爲北海道廳ニ警部五人ヲ置キ警察部ニ屬セシム

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第百八十九號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

高等文官ヲ勸メ退官シタル者再ヒ高等官ニ任セラルル場合ニ於テハ其官等ハ前官ノ官等以下トス但前官官等在職年數滿二年ヲ踰エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第八條ノ二中「親任式ヲ以テ敍任セラルル官」ノ下ニ「特命全權公使、内閣書記官長、各省官房長及辨理公使」ヲ加フ

第九條及文武高等官官等表中「次官」ヲ「總務長官」ニ「參與官」ヲ「官房長」ニ改ム

第九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

各省勅任參事官ノ官等ハ高等官二等トシ其年俸ハ三千圓トス

〔參照〕

勅令第九十六號高等官官等俸給令（明治二十五年十一月十四日官報）抄錄

第七條第二項

高等文官ヲ勸メ退官シタル者再ヒ高等官ニ任セラルル場合ニ於テハ其官等ハ前官ノ官等以下トス但前官ノ官等七等以下ナルトキハ陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第八條ノ二　親任式ヲ以テ敍任セラルル官ニ任セラルル場合ニ於テハ第七條及第八條ヲ文官任用令第一條第四項ニ依リ勅任文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ第七條ヲ適用セス

○

朕外務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏

勅令第百九十號

外務省官制中左ノ通改正ス

第一條中「領事官ヲ」ノ下ニ「指揮」ヲ加フ

第二條中「大臣官房」ヲ「總務局」ニ改ム

第三條中「專任參事官ハ二人」ヲ「專任參事官ハ三人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百五十八號外務省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄

第一條　外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ監督ス

○

朕内務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百九十一號

内務省官制中左ノ通改正ス

第二條中「大臣官房」ヲ「總務局」ニ改ム

第三條中「三人」ヲ「四人」ニ「九人」ヲ「十人」ニ改ム

第五條中第五號ヲ削ル

第十二條第二項中「十五人」ヲ「十六人」ニ同條第三項中「二百九人」ヲ「二百十五人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百五十九號内務省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄

第三條　内務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第五條　地方局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

五　官有地ニ關スル事項

第十二條第二項第三項

内務書記ニ專任技手十五人ヲ置ク

内務書記ハ二百九人ヲ以テ定員トス

○

朕明治三十三年勅令第百六十六號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第百九十二號

明治三十三年勅令第百六十六號中左ノ通改正ス

第十二條中ノ下「二百九人」ヲ「二百十五人」ニ「二百三人」ヲ「二百九人」ニ改ム

〔參照〕

明治三十三年四月二十七日官報勅令第百六十六號ハ內務省官制中改正ノ件ナリ

○

朕陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第百九十三號

陸軍省官制

第一條　陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ及所管諸部ヲ監督ス

第二條　陸軍省ニ副官ヲ置キ祕書官ニ兼補ス

第三條　陸軍省ニ左ノ六局ヲ置ク

總務局

人事局

軍務局

經理局

醫務局

法務局

第四條　總務局ニ機密課及庶務課ヲ置ク

第五條　機密課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項

二　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

三　外國駐在員及留學將校同相當官ニ關スル事項

四　徵發物件表報告及統計ニ關スル事項

五　翻譯ニ關スル事項

六　各局課ニ屬セサル事項

第六條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　例規ニ依リ取扱フヘキ庶務ニ關スル事項

二　公文書類ノ接受發送ニ關スル事項

三　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

四　印刷ニ關スル事項

五　軍旗及靖國神社ニ關スル事項

六　省內ノ風紀ニ關スル事項

七　省屬判任文官ノ人事ニ關スル事項

八　本省ノ諸給與及用度ニ關スル事項

第七條　人事局ニ補任課及恩賞課ヲ置ク

第八條　補任課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　將校、同相當官准士官竝文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、增給ニ關スル事項

二　將校竝准士官兵籍、陸軍文官名簿、停年名簿、列次名簿及充員名簿ニ關スル事項

三　退職將校、同相當官准士官ノ人事及名簿ニ關スル事項

第九條　恩賞課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　恩給ニ關スル事項

二　敘位、敘勳、記章、褒章、賞與ニ關スル事項

三　准士官下士文官採用ニ關スル事項

四　賜暇ニ關スル事項

五　結婚ニ關スル事項

第十條　軍務局ニ軍事課、步兵課、騎兵課、砲兵課、工兵課及獸醫課ヲ置ク

第十一條　軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　建制及編制ニ關スル事項

二　動員計畫、戒嚴及徵發ニ關スル事項

三　演習及檢閱ニ關スル事項

四　教育總監部及同總監部直轄諸學校ニ關スル事項

五　國隊配置ニ關スル事項

六　鐵道及兵站業務ニ關スル事項

七　水陸交通路ニ關スル事項

八　儀式、禮式、服制、徽章ニ關スル事項

九　風紀軍紀ニ關スル事項

十　參謀本部、陸軍大學校、鐵道大隊ニ關スル事項

第十二條　步兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　兵役、召集及解兵ニ關スル事項

二　各兵科將校ノ補充ニ關スル事項

三　各兵科各部准士官以下補充ノ規定ニ關スル事項

四　憲兵、步兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ下士以下補充ニ關スル事項

五　同上及聯隊區司令部ノ本務ニ關スル事項

六　現役、豫備役、後備役軍人及國民軍ニ關スル事項

七　軍隊ノ內務、衞戍勤務及軍事警察ニ關スル事項

八　練兵場及小銃射擊場ニ關スル事項（築設及管理ヲ除ク）

第十三條　騎兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　騎兵及輜重兵ノ本務ニ關スル事項

二　騎兵、輜重兵下士以下ノ補充ニ關スル事項

三　軍馬ノ供給、飼養、保續及徵發ニ關スル事項

四　蹄鐵ニ關スル事項

五　各兵科蹄鐵工長ノ補充ニ關スル事項

六　騎兵實施學校及軍馬補充部ニ關スル事項

第十四條　砲兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　野戰砲兵及要塞砲兵ノ本務ニ關スル事項

二　砲兵下士以下ノ補充ニ關スル事項

三　砲兵射擊場ニ關スル事項（築設、維持及管理ヲ除ク）

四　兵器ノ供給、保續及兵器監部ニ關スル事項

五　砲兵會議ニ關スル事項

六　野戰及要塞砲兵射擊學校、砲兵工科學校ニ關スル事項

七　國防上砲兵ニ關スル事項

八　陸軍職工ニ關スル事項

第十五條　工兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　工兵ノ本務ニ關スル事項

二　工兵下士以下補充ニ關スル事項

三　工兵會議及築城部ニ關スル事項

四　東京防禦總督部、要塞司令部、陸地測量部ニ關スル事項

五　國防上工兵ニ關スル事項

六　通信及電氣術、電信術、電燈ニ關スル事項

七　橋梁及隧道等破壞ニ關スル事項

八　輕氣球及使鳩ニ關スル事項

九　運輸及臺灣補給廠ニ關スル事項

第十六條　獸醫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　獸醫材料ニ關スル事項

二　獸醫部ノ勤務及教育ニ關スル事項

三　獸醫部ノ人員補充及兵籍ニ關スル事項

四　蹄鐵術ノ教育ニ關スル事項

五　獸醫學校及軍馬衛生會議ニ關スル事項

第十七條　軍務局長ハ獸醫部上長官士官ノ人事ヲ掌ル

第十八條　經理局ニ主計課、被服課、糧秣課及建築課ヲ置ク

第十九條　主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍總豫算、決算報告及動員計畫ニ係ル豫算築軸ニ關スル事項

二　諸給與及會計規定ノ審査ニ關スル事項

三　俸給、諸手當旅費ノ規定及簿記證書ニ關スル事項

四　監督部、軍吏部ノ勤務ニ關スル事項

五　監督部及軍吏部ノ教育補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項

六　金錢ニ係ル出納官吏ニ關スル事項

七　經理學校ニ關スル事項

第二十條　被服課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　被服一切ノ經理ニ關スル事項

二　被服給與ノ規定ニ關スル事項
三　被服ノ檢査ニ關スル事項
四　馬匹手入具ニ關スル事項
五　被服廠及千住製絨所ニ關スル事項

第二十一條　糧秣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　平時及戰時ノ糧秣諸給與、野戰軍ノ給養準備ニ關スル事項
二　要塞ノ糧秣準備ニ關スル事項
三　監督部ノ野戰給養勤務ノ規定ニ關スル事項
四　糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項
五　給養ノ實驗ニ關スル事項
六　戰用炊具ニ關スル事項
七　中央糧秣廠ニ關スル事項

第二十二條　建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　陸軍用地及諸建築（工兵事業及砲兵工廠ニ關スルモノヲ除ク）ニ關スル事項
二　宅料、陣營具及永續料、消耗品料、埋葬料竝諸調度ノ規定ニ關スル事項
三　物品會計及出納官吏ニ關スル事項
四　官有財產ニ關スル事項
五　金櫃、公用行李ニ關スル事項
六　東京陸軍經營部ニ關スル事項

第二十三條　經理局長ハ監督部及軍吏部士官以上ノ人事ヲ掌ル

第二十四條　醫務局ニ衛生課及醫事課ヲ置ク

第二十五條　衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　衛生部ノ勤務及教育ニ關スル事項
二　衛生部ノ人員補充及士官以上ノ兵籍ニ關スル事項
三　軍事衛生及治病上ノ審案ニ關スル事項
四　恩給診斷及傷病ニ因ル除役ニ關スル事項
五　衛生報告及衛生部員學術上ノ業績ニ關スル事項
六　軍醫學校及衛生會議ニ關スル事項

第二十六條　醫事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　病院、休養室及轉地療養所ニ關スル事項
二　衛生材料ニ關スル事項
三　衛生統計ニ關スル事項
四　身體檢査ニ關スル事項
五　衛生材料廠及恤兵團體ニ關スル事項
六　其ノ他醫事ニ關スル事項

第二十七條　醫務局長ハ衛生部士官以上ノ人事ヲ掌ル

第二十八條　法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　軍事司法ニ關スル事項

二　監獄ニ關スル事項
三　特赦及罪人引渡ニ關スル事項
四　理事錄事及監獄職員ノ人事ニ關スル事項

第二十九條　法務局ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス

第三十條　陸軍省職員ハ附表ノ如シ

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

附表

陸軍省職員表

部局	長	員數	課	課長	員數	課員等	員數
大臣（大中將）							
總務長官（中少將）							
參事官		二					
副官兼祕書官	佐官	一					
	大尉	一					
總務局			機密課	長 大中佐	一	課員 中少佐	二
			庶務課	長 大中佐	一	大尉	二
						佐官	一
						軍吏	一
人事局	長 少將大佐	一	補任課	長 大中佐	一	課員 中少佐	二
			恩賞課	長 大中佐	一	大尉	二
軍務局	長 中少將	一	軍事課	長 大中佐	一	課員 中少佐	八
			步兵課	長 步兵大中佐	一	大尉	一〇
			騎兵課	長 騎兵大中佐	一	一等獸醫	二
			砲兵課	長 砲兵大中佐	一		
			工兵課	長 工兵大中佐	一		
			獸醫課	長 獸醫監	一		
經理局	長 監督總監 監督監	一	主計課	長 一二等監督	一	課員 二三等監督	四
			被服課	長 一二等監督	一	監督補	二
			糧秣課	長 一二等監督	一	軍吏	五
			建築課	長 一二等監督	一	技師	一
醫務局	長 軍醫總監 軍醫監	一	衛生課	長 一二等軍醫正	一	課員 二三等軍醫正	二
			醫事課	長 一二等軍醫正	一	一等軍醫	三
法務局	長 理事（勅任）	一		局員 理事（三等以下）	四		
屬		一二五					
技手		八					
錄事		三					

備考

一、陸軍大臣及總務長官ニ任セラルルモノハ現役將官ヲ以テス
二、本表定員ノ外出仕トシテ將校同相當官八名ヲ置クコトヲ得
三、課員ニ缺員アルトキハ之ニ代フルニ出仕タル將校同相當官ヲ增員スルコトヲ得
四、本表中副官兼祕書官大尉一、及總務局課員佐官一ハ兼務トス

○

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
海軍大臣　山本權兵衞

勅令第百九十四號

海軍省官制

第一條　海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條　海軍省ニ副官ヲ置ク

副官ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ總務局ノ事務ヲ掌ル

第三條　海軍省ニ編修ヲ置ク

編修ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯編纂ノ事務ニ服ス

第四條　各省官制通則第十條第二項第一號及第三號ノ事務ハ總務局ニ換テ之ヲ管掌ス

第五條　海軍省ニ軍務局人事局醫務局經理局及司法局ヲ置ク

第六條　軍務局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム

一　建制、編制及役務ニ關スル事項

二　軍紀風紀ニ關スル事項

三　戒嚴及徵發ニ關スル事項

四　儀式、禮式、服制及旗章ニ關スル事項

五　水路、望樓及測器ニ關スル事項

六　海上保安及運輸通信ニ關スル事項

七　艦政ニ關スル事項

八　教育、演習及檢閱ニ關スル事項

第七條　人事局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム

一　高等武官、候補生、准士官及文官ノ補充、服務、進退、任免、補職、命課、增俸ニ關スル事項

二　下士卒ノ任用、徵募、進級、補充、服役、召集、簡閱點呼ニ關スル事項

三　軍人軍屬ノ敍位、敍勳、記章、褒章、賞與、恩給其ノ他身上ニ關スル事項

第八條　醫務局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム

一　醫務、衞生、恩給診斷、軍人體格ニ關スル事項

二　病院及治療品ニ關スル事項

三　軍醫官及藥劑官ノ教育ニ關スル事項

第九條　經理局ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム

一　豫算、決算、出納、給與、被服、糧食、通常物品、官有財產、建築及用度ニ關スル事項

二　金錢及物品會計ノ監査ニ關スル事項

三　主計官ノ教育ニ關スル事項

第十條　司法局ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　軍事司法、懲罰、監獄ニ關スル事項

二　主理、錄事竝監獄ノ人員ニ關スル事項

第十一條　各局ニ局長ヲ置ク

軍務局、人事局、醫務局及經理局ノ各課ニ課長及課員ヲ置キ司法局ニ局員ヲ置ク

第十二條　各局長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス

第十三條　軍務局、人事局、醫務局、經理局ノ各課長ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ分掌ノ事務ヲ掌ル其ノ

課員ハ課長ノ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

第十四條　司法局ノ局員ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

第十五條　海軍省ニ技手及錄事ヲ置キ各局ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム

第十六條　司法局ノ職員ハ海軍高等軍法會議ノ事務ニ服ス

第十七條　海軍省ノ定員ハ別表ニ依ル

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

海軍省定員表

參事官 二	編修 一					
大臣官房	總務局	秘書官 中少佐 二				
		副官 大佐（中少佐） 一 三	副官ヲ以テ兼補ス			
	軍務局	長 中少將 一				
		第一課	長 大佐 一	課員	中少佐大尉 機關中少監大機關士 六	屬 七十二
		第二課	長 大佐 一			
	人事局	長 少將 一				
		第一課	長 大佐 一	課員	中少佐大尉 機關中少監大機關士 五	錄事 三
		第二課	長 大佐 一			

臣（大中將）

官（中少將）

醫務局	長 軍醫總監 一					
	第一課	長 軍醫大監 一	課員	軍醫中少監 藥劑監 藥劑正 大軍醫	四	技手 七
	第二課	長 軍醫大監 一				
經理局	長 主計總監 一					
	第一課	長 主計大監 一	課員	主計中少監 大主計 技師	十	
	第二課	長 主計大監 一				
	第三課	長 主計大監 一				
司法局	長 主理（勅任） 一					
	局員	主理（奏任） 三				

合計　百三十五人　內兼務二人

備考

一、海軍大臣及總務長官ニ任セラルルモノハ現役將官ヲ以テス

二、本表ノ外出仕トシテ將校同相當官四名ヲ置クコトヲ得

三、本表ノ外本職アル者ニ兼務ヲ命スルコトヲ得

○朕海軍教育本部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第百九十五號

海軍教育本部條例

第一條　海軍教育本部ハ之ヲ東京ニ置キ海軍軍事教育ノ統一及其ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條　海軍教育本部ニ第一部及第二部ヲ置キ各其ノ所管ノ事務ヲ分掌セシム

第三條　海軍教育本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長
副官
第一部長
第二部長
部員
海軍編修

第四條　海軍教育本部長ハ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理シ海軍大學校、海軍兵學校、海軍機關學校、海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所及海軍機關術練習所ヲ管轄ス

第五條　海軍教育本部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　海軍教育本部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第七條　副官ハ本部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ其ノ部務ヲ掌理ス

第九條　部員及海軍編修ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　第三條ニ掲クル職員ノ外書記、海軍編修書記ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○朕海軍艦政本部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第百九十六號

海軍艦政本部條例

第一條　海軍艦政本部ハ之ヲ東京ニ置キ兵器、艦營需品及艦船ノ船體機關ニ關スルコトヲ掌ルトス所

第二條　海軍艦政本部ニ第一部第二部第三部及第四部ヲ置ク

第三條　第一部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　兵器ニ關スルコト

二　造兵廠、兵器廠及下瀬火藥製造所ニ關スルコト

三　造兵官ノ勤務及教育ニ關スルコト

第四條　第二部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　艦營需品ニ關スルコト

二　炭山及炭庫ニ關スルコト

第五條　第三部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　艦船ノ船體ニ關スルコト

二　造船廠ニ關スルコト

三　造船官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト

第六條　第四部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

一　艦船ノ機關ニ關スルコト

二　機關官以下ノ勤務ニ關スルコト

第七條　海軍艦政本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長

副官

第一部長

第二部長

第三部長

第四部長

部員

第八條　本部長ハ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ統理ス

第九條　海軍艦政本部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十條　海軍艦政本部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第十一條　副官ハ本部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十二條　各部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌ル

第十三條　部員ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　第七條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官、准士官、書記及技手ヲ置キ各部ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍軍令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第百九十七號

海軍軍令部條例中左ノ通改正ス

第十八條及別表ヲ削除ス

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕
勅令第四百二十三號海軍軍令部條例（明治三十年十二月一日官報）抄錄
第十八條　海軍軍令部ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕艦隊條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第百九十八號

艦隊條例中左ノ通改正ス

第四條　艦隊ニ司令長官ヲ置ク

司令長官ハ親補トス

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二　司令長官ハ

天皇ニ直隸シ麾下ノ艦船ヲ統率シ隊務ヲ總理ス

司令長官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ受ク

第五條中「風紀」ノ下ニ「及教育訓練」ヲ加フ

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條ノ二　司令長官ハ本邦ニ於ケル島嶼等隔絶シタル地方ニ在ルトキ急劇ノ事變アリ鎮定ノ爲メ兵力ヲ用フルヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方官ト合議シ便宜事ニ從フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條中「將旗代將旗」ヲ「司令長官司令官」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕
勅令第三百五十六號艦隊條例（明治三十年十月十四日官報）抄錄
第四條　艦隊ニ司令長官ヲ置ク
司令長官ハ
天皇ニ直隸シ麾下ノ艦船ヲ統率シ又海軍大臣ノ命ヲ承ケ所管ノ軍政ヲ總理ス
第五條　司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀ヲ統監ス
第十條　司令長官軍港要港ニアラサル港灣ニ在テ所在海軍先任將校タルトキハ同港內ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルノ權ヲ有ス但シ他ノ將旗代將旗現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス
前項ハ司令官ニ適用ス

○

朕鎮守府條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第百九十九號

鎮守府條例

第一條　各軍港ニ鎮守府ヲ置ク

鎮守府ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　鎮守府ハ出師ノ準備、防禦ノ計畫、海軍區ノ營備竝所轄諸部ノ事務ヲ監督スル所トス

第三條　鎮守府ニ司令長官ヲ置ク

司令長官ハ親補トス

第四條　司令長官ハ

天皇ニ直隷シ麾下ノ艦隊艦船部團隊ヲ統率シ所屬各部ヲ監督シ府務ヲ總理ス

司令長官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ケ出師準備防禦計畫ニ關シテハ海軍軍令部長ノ區處ヲ承ク

第五條　司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス

第六條　司令長官ハ麾下ノ艦隊、艇隊若ハ艦船ヲ所管海軍區及鄰區內ニ派遣シ又軍隊ヲ所管海軍區內ニ派遣スルコトヲ得

第七條　司令長官ハ其ノ軍港內ニ在ル他ノ所管ノ艦船ヲ指揮スルコトヲ得但シ他ノ司令長官司令官現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第八條　司令長官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得其ノ事地方長官ノ請求ヲ待ツノ遑無キトキハ便宜兵力ヲ用フルコトヲ得此ノ場合ニ當リテハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第九條　司令長官ハ疾疫其ノ他緊急ノ場合ニ方リ一時麾下ノ兵員ヲ移轉セシムルヲ必要トスルトキハ之ヲ處分シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條　司令長官ハ麾下ノ雜役船舟ニ乘員ヲ要スルトキハ麾下人員ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

第十一條　司令長官ハ麾下ノ候補生及准士官ヲ麾下艦船團其ノ他各部ニ轉乘若ハ轉勤セシムルコトヲ得

第十二條　司令長官ハ麾下ノ下士卒ヲ所屬艦船團其ノ他各部ニ配付ス

第十三條　司令長官ハ軍機保護ノ爲ニ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得

第十四條　司令長官ハ麾下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ麾下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十五條　司令長官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ所在麾下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第十六條　鎮守府ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長

參謀

副官

第十七條　參謀長ハ司令長官ヲ佐ケ幕僚ノ事務ヲ統ヘ府務ヲ整理ス

第十八條　參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十九條　副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ庶務及准士官以上竝所屬文官ノ人事ヲ掌ル

第二十條　鎮守府ニ望樓監督官ヲ置キ參謀長ノ命ヲ承ケ海軍望樓ニ關スルコトヲ掌ラシム

第二十一條　鎮守府ニ兵事官ヲ置キ參謀長ノ命ヲ受ケ兵籍ヲ主管シ徵兵募兵及艦船團其ノ他各部ノ下士卒定員ノ補缺竝豫備役兵後備役兵ノ召集簡閲點呼ニ關スルコトヲ掌ラシム

第二十二條　鎮守府ニ艦政部機關部醫務部經理部及司法部ヲ置ク

第二十三條　艦政部ニ於テハ兵器、艦營需品及艦船ノ船體、機關ニ關スルコトヲ掌ル

第二十四條　機關部ニ於テハ艦船ノ機關ノ使用保存ニ關スルコト及機關官以下ノ勤務ニ關スルコトヲ掌ル

第二十五條　醫務部ニ於テハ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第二十六條　經理部ニ於テハ會計經理、造兵造船ノ材料物件ニ非ラサル通常物品ノ購買供給、鎮守府所管一般及其ノ所屬艦船團並軍港境域内ニ在ル其ノ他ノ諸官衙ノ會計事務ノ監督、管區内ニ在ル艦船團其ノ他各部諸官衙ノ金櫃物件及帳簿ノ監査ヲ掌リ第一課第二課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

經理部ニ衣糧科ヲ置キ衣服糧食ノ準備保存供給ニ關スルコトヲ掌ラシム

經理部ニ建築科ヲ置キ官有財産建築及土木ニ關スルコトヲ掌ラシム

第二十七條　司法部ニ於テハ軍事司法、懲罰及監獄ニ關スルコトヲ掌ル

第二十八條　艦政部、機關部、醫務部、經理部及司法部ニ左ノ職員ヲ置ク

艦政部
　部長
　部員
機關部
　部長
　部員
醫務部
　部長
　部員
經理部
　部長
　部員
　第一課長
　第二課長
　課員
　衣糧科長
　衣糧科科員
　建築科長
　建築科科員
司法部
　部長
　部員

第二十九條　各部長ハ司令長官ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理ス

經理部長ハ會計事務ノ監督及金櫃物件帳簿ノ監査ニ就テハ海軍大臣ニ隷ス

第三十條　各部ノ部員ハ各其ノ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十一條　經理部課長ハ部長ノ命ヲ承ケ各其ノ課ノ事務ヲ掌ル

課員ハ其ノ所屬課長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十二條　經理部科長ハ部長ノ命ヲ承ケ各其ノ科ノ事務ヲ掌ル

科員ハ科長ノ命ヲ承ケ服務ス

第三十三條　鎮守府ニ臨時艤裝委員ヲ置キ艤裝ニ關スル事務ニ服セシムルコトヲ得

第三十四條　前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官竝准士官下士卒及書記錄事技手ヲ置キ各部ニ分屬シ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍港務部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百號

海軍港務部條例

第一條　各軍港ニ海軍港務部ヲ置ク

港務部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　港務部ハ軍港水域ノ警衛、艦船ノ繫留、出入渠、浚渫船ノ使用、海標、運輸、救難、防火等ノ事及司令長官ノ指定スル軍港防禦ノ一部ニ關スルコトヲ掌ル

第三條　港務部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

副官

部員

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ海軍軍醫及主計ヲ置クコトヲ得

第四條　部長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條　部長ハ部下ノ職員ヲ所屬船舟ニ乘組マシムルコトヲ得

第六條　部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條　部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第八條　副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官竝准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕豫備艦部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百一號

豫備艦部條例

第一條　各軍港ニ豫備艦部ヲ置ク

豫備艦部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　豫備艦部ハ豫備艦ヲ統轄保管シ又其ノ就役準備ヲ掌ル

第三條　豫備艦部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
副官
部員
機關長

軍醫長
軍醫
主計長
主計

第四條　部長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條　部長ハ部下ノ職員ヲ所轄豫備艦ニ乗組マシムルコトヲ得

第六條　部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條　部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス、

第八條　副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十三條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官竝准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍兵器廠條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百二號

海軍兵器廠條例

第一條　各軍港ニ海軍兵器廠ヲ置ク但シ吳軍港ニハ之ヲ置カス

兵器廠ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　兵器廠ハ兵器ノ準備、保存、供給、備裝及修理ニ關スルコトヲ掌リ砲銃庫、水雷庫及工場ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム但シ必要ノ場合ニ於テハ海軍大臣ノ命ニ依リ兵器ノ製造ヲ爲スコトヲ得

第三條　兵器廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長

廠員

砲銃庫主管

水雷庫主管

工場主管

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ海軍軍醫及主計ヲ置クコトヲ得

第四條　廠長ハ鎮守府艦政部長ニ隸シ廠務ヲ總理ス

第五條　廠長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　廠長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第七條　廠員ハ廠長ノ命ヲ承ケ服務ス又臨時命ヲ承ケ砲銃庫水雷庫及工場ノ事務ニ服ス

第八條　砲銃庫主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ砲銃彈藥及其ノ屬具ノ準備、保存、供給ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　水雷庫主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ水雷及其ノ屬具ノ準備、保存、供給ニ關スル事ヲ掌ル

第十條　工場主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ兵器ノ備裝、製造及修理ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條　軍醫長ハ廠長ノ命ヲ承ケ醫務及衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　主計長ハ廠長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十四條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　前諸條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官竝准士官下士卒及書記技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍需品庫條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三號

海軍需品庫條例

第一條　各軍港ニ海軍需品庫ヲ置ク

需品庫ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　需品庫ハ艦營需品ノ準備保存及供給ヲ掌ル

第三條　需品庫ニ主管ヲ置キ鎮守府艦政部長ニ隷シ其ノ庫ノ事務ヲ掌理セシム

第四條　需品庫ニ庫員ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム

第五條　第三條及第四條ニ掲クル職員ノ外需品庫ニ海軍兵曹長同相當官准士官下士卒及書記ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム

第六條　軍港ノ外所要ノ港灣ニ需品支庫ヲ置キ艦營需品ノ一部ヲ配布シ艦船臨時ノ需用ニ供セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍測器庫條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百四號

海軍測器庫條例

第一條　各軍港ニ海軍測器庫ヲ置ク

測器庫ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　測器庫ハ測器及航海ニ關スル圖書ノ準備保存供給ヲ掌リ及氣象觀測ヲ行フ

第三條　測器庫ニ主管ヲ置キ鎮守府艦政部長ニ隷シ其ノ庫ノ事務ヲ掌理セシム

第四條　測器庫ニ書記技手ヲ置キ主管ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍望樓條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百五號

海軍望樓條例

第一條　沿岸ノ諸要所ニ海軍望樓ヲ置ク

望樓ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　望樓ハ海上見張及通信ヲ掌リ竝氣象觀測ヲ行フ

第三條　望樓ニ望樓長ヲ置キ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ望樓監督官ニ隸シ其ノ望樓ノ事務ヲ掌理セシム

第四條　要港部附近ノ望樓ニ於ケル望樓長ハ又其ノ要港部參謀ノ區處ヲ受ク

第五條　望樓ニ望樓手ヲ置キ望樓長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第六條　望樓長事故アルトキハ上席ノ望樓手其ノ職務ヲ代理ス

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕要港部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百六號

要港部條例

第一條　各要港ニ要港部ヲ置ク

要港部ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　要港部ハ要港ノ防禦及其ノ附近ノ海岸海面ノ警備ヲ掌リ兼テ軍需品ノ配給、艦船兵器ノ小修理ヲ爲ス所トス

第三條　要港部ニ左ノ職員ヲ置ク

司令官

參謀長

參謀

副官

知港事

機關長

工場主管

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ海軍機關士軍醫及主計ヲ置クコトヲ得

參謀長參謀及副官ヲ幕僚ト稱ス

第四條　司令官ハ

天皇ニ直隸シ部下ノ諸隊ヲ統率シ部務ヲ總理ス

司令官ハ軍政人事ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ受ケ防禦計畫ニ關シテハ海軍軍令部長ノ區處ヲ受ク

第五條　司令官ハ麾下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス

第六條　司令官ハ艦政、兵事、海岸海面ノ警備ノ任務ニ關シテハ其所在海軍區ヲ管スル鎮守府司令長官ノ區處ヲ受ク

第七條　要港部ニ要スル兵員ノ配付及需品器具材料其ノ他諸物品ノ供給ハ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ所掌トス

第八條　司令官ハ要港內ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルコトヲ得但シ他ノ司令長官司令官現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第九條　司令官ハ地方長官ヨリ地方ノ安寧ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得其ノ事地方長官ノ請求ヲ待ツノ遑ナキトキハ便宜兵力ヲ用フルコトヲ得此ノ場合ニ當リテハ事後速ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條　司令官ハ軍機保護ノ爲所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得

第十一條　司令官ハ部下ノ機關官、軍醫若ハ主計ヲ水雷艇ニ乘組マシムルコトヲ得

第十二條　司令官ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十三條　司令官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下ノ首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第十四條　參謀長ハ司令官ヲ佐ケ幕僚ノ事務ヲ統ヘ部務ヲ整理ス

第十五條　參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十六條　副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第十七條　知港事ハ司令官ノ命ヲ承ケ所屬諸船ヲ統轄シ要港ノ警備ヲ掌リ海運、海標、救難及防火等ニ關スル事ヲ掌ル

第十八條　機關長ハ司令官ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事及機關官以下ノ勤務ニ關スル事ヲ掌ル

第十九條　工場主管ハ船體機關及兵器ノ小修理ニ關スル事ヲ掌ル

第二十條　機關士ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十一條　軍醫長ハ司令官ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第二十二條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十三條　主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ會計給與及軍需品配給ニ關スル事ヲ掌ル

第二十四條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十五條　要港部ニ水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

第二十六條　水雷敷設隊及水雷艇隊ノ任務並職員及其ノ職務ニ關シテハ水雷團條例ノ規定ヲ適用ス但シ水雷團長ノ職權ハ司令官之ヲ行フ

第二十七條　要港部ニハ第三條及第二十六條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十八條　軍港要港ニ非ラサル港灣ニシテ水雷防禦ヲ要スル所ニハ必要ニ應シ附近要港部ヨリ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ分置シ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱セシム

前項ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ハ平時ニ在テハ之ヲ所轄要港部中ニ置クコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ該港灣ノ防禦ハ要港部司令官之ヲ掌ル

附　則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕司法省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
司法大臣　清浦奎吾

勅令第二百七號

司法省官制中左ノ通改正ス

第二條中「大臣官房」ヲ「總務局」ニ改ム

第三條中「專任參事官ハ二人」ヲ「專任參事官ハ三人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕文部省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第二百八號

文部省官制中左ノ通改正ス

第二條中「大臣官房」ヲ「總務局」ニ改メ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

一　官吏ノ進退身分ニ關スル事項

第三條　文部省專任參事官ハ四人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

勅令第二百七十九號文部省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄

第三條　文部省專任參事官及專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

○

朕農商務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月十九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百九號

農商務省官制中左ノ通改正ス

第二條　總務局ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外內外博覽會ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　農商務省專任參事官ハ四人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕
勅令第二百八十二號農商務省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄
第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外內外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル
第三條　農商務省事任參事官及事任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治三十年勅令第百九十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第二百十號（官報　五月二十三日）

明治三十年勅令第百九十七號中左ノ通改正ス

第一條及第四條中「他ノ奏任文官」ヲ「他ノ高等文官」ニ改ム

〔參照〕
勅令第百九十七號（明治三十年六月二十二日官報）抄錄
第一條　本年勅令第百九十六號ニ依リ高等官五等以上ノ祕書官ニ任用セラレタル者又ハ同令ニ依リ在職年數ニ拘ラス陞等シタル者他ノ奏任文官ニ轉任シ又ハ其ノ官ヲ退キ他ノ奏任文官ニ再任スル場合ニ於ケル官等ハ本令ノ規程ニ依ル
第四條　第二條第三條ニ依リ他ノ奏任文官ニ轉任又ハ再任シタル者ノ陞等ニ關シテハ其ノ祕書官タル前ノ他官官等在職年數ハ本令施行前ノ祕書官官等在職年數並ニ轉任又ハ退官現時ノ祕書官官等在職年數ヲ通算ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第二百十一號（官報　五月二十三日）

文官懲戒令中左ノ通改正ス

第二十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アルトキハ上級官廳ノ高等官ヲ以テ下級官廳ノ委員ニ充ツルコトヲ得

○

朕軍事參議官條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
陸軍大臣子爵桂太郎
海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百十二號（官報　五月二十三日）

軍事參議官條例中左ノ通改正ス

第二條及第三條中「監軍」ヲ「教育總監」ニ改ム

○

朕陸軍砲工學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

勅令第二百十三號（官報　五月二十三日）

陸軍砲工學校條例中左ノ通改正ス

第二條中「陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ」ノ十字ヲ削ル

第十二條中「教育總監ノ上申ニ依リ」ヲ「教育總監之ヲ定メ」ニ改ム

陸軍大臣子爵桂　太郎

〔參照〕

勅令第二百二十五號陸軍砲工學校條例（明治三十一年十月一日）抄錄

第二條　學生教育ノ綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第十二條　學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

○

朕陸軍士官學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

勅令第二百十四號（官報　五月二十三日）

陸軍士官學校條例中左ノ通改正ス

第二條中「陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ」ノ十字ヲ削ル

陸軍大臣子爵桂　太郎

〔參照〕

勅令第二百二十六號陸軍士官學校條例（明治三十一年十月一日）抄錄

第二條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

○

朕陸軍中央幼年學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

勅令第二百十五號（官報　五月二十三日）

陸軍中央幼年學校條例中左ノ通改正ス

第二條中「陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ」ノ十字ヲ削ル

第二十一條中「陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ」ヲ「之ニ」ニ改ム

陸軍大臣子爵桂　太郎

〔參照〕

勅令第二百二十八號陸軍中央幼年學校條例（明治三十一年十月一日）抄錄

第二條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第二十一條　教育總監ハ前條卒業者中士官候補生トナスヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配賦ス

○

朕陸軍地方幼年學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第二百十六號（官報　五月二十三日）

陸軍地方幼年學校條例中左ノ通改正ス

第三條中「陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ」ノ十字ヲ削ル

第十六條中「其區分ハ」ノ下ヲ「教育總監陸軍大臣ニ協議シテ之ヲ定ム」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百二十九號陸軍地方幼年學校條例（明治三十一年十月一日）抄錄

第三條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第十六條　特待生半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○

朕陸軍軍樂學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第二百十七號（官報　五月二十三日）

陸軍軍樂學校條例中左ノ通改正ス

第九條中「教育總監ノ上申ニ依リ」ヲ「教育總監之ヲ定メ」ニ改ム

〔參照〕

勅令第六十二號陸軍軍樂學校條例（明治三十一年三月三十日官報）抄錄

第九條　學生ノ人員及入校時日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

○

朕軍馬衛生會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十二日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第二百十八號（官報　五月二十三日）

軍馬衛生會議條例

第一條　軍馬衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省軍務局長ノ管理ニ屬シ軍馬ノ衛生事項ニ關シ諮詢ニ應スル所トス

第二條　軍馬衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長

議員

事務官

臨時議員

臨時議員ハ議事上必要ニ應シ軍務局長ノ稟申ニ由リ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命シ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第三條　前條職員ノ外判任文官ヲ置ク

第四條　議長ハ陸軍省軍務局長ニ隸シ議事ヲ整理シ會議ノ事務ヲ總理ス

第五條　事務官ハ議長ノ命ヲ受ケ會議ノ事務ヲ處理シ審査ヲ分擔スルトシテ分擔ノ事項ニ關シテハ

議事ニ列シ説明答辯ノ任ニ當ル

第六條　議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中高級故參ノ者其代理ヲ爲スヘシ

第七條　軍馬衛生會議ハ軍馬ノ衛生ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍省軍務局長ニ建議スルコトヲ得

第八條　議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

○

朕外交官及領事官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏

勅令第二百十九號（官報　五月二十五日）

外交官及領事官官制中左ノ通改正ス

第十條第四項中「三」ヲ「五」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百八十號外交官及領事官官制（明治三十二年六月二日官報）抄錄

第十條第四項

待命ハ滿三箇年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス

○

朕在外公館職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
外務大臣子爵青木周藏

勅令第二百二十號（官報　五月二十五日）

在外公館職員定員令中左ノ通改正ス

第一條中「十五人」ヲ「十六人」ニ「二十八人」ヲ「三十人」ニ「三十四人」ヲ「三十五人」ニ「二十九人」ヲ「三十人」ニ改ム

第二條中「十五人」ヲ「二十五人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百八十一號在外公館職員定員令（明治三十二年六月二十日官報）抄錄

第一條中

特命全權公使、辨理公使ハ通シテ十五人

公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ二十八人

總領事、領事、副領事、貿易事務官ハ通シテ三十四人

外交官補、領事官補ハ通シテ二十九人

第二條　待命ノ外交官、領事官、貿易事務官、公使館二等通譯官及公使館二等通譯官ハ通シテ十五人トシ前條定員ノ內ニ算入セス

○

朕公使館領事館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

外務大臣子爵青木周藏

勅令第二百二十一號（官報　五月二十五日）

公使館領事館費用條例中左ノ通改正ス

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

外交官、領事官及外務書記生ノ妻ニシテ其ノ夫ノ舊任所若ハ任所ニ於テ又ハ其ノ任所往返中死亡シタルトキハ其ノ夫ノ在勤俸年額十分ノ一箇半以内ヲ給スルコトヲ得

第二十二條第三號中「若クハ兼任地」ヲ「兼任地及其ノ他」ニ改ム

第二十三條第一項中兼任國ノ下ニ「及其ノ他」ヲ加フ

別表第一號中特命全權公使ノ項蘭ノ欄ニ「一四、〇〇〇」ヲ加ヘ白ノ下ニ左ノ一欄ヲ加フ

西	
一七、〇〇〇圓	
一	
七、〇〇〇	
六、五〇〇	
五、三〇〇	
四、二〇〇	
三、五〇〇以下	
二、七〇〇以下	

〔參照〕

勅令第百七十一號公使館領事館費用條例（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第二十二條　外交官、領事官、公使館書記生及領事館書記生ノ妻ニ對スル船車料ヲ給スルハ左ノ場合ニ限ル

三　兼任國若クハ兼任地ヘ出張スル場合ニ於テ同伴スルトキ但特命全權公使、辨理公使、臨時代理公使ヲ除クノ外ハ特ニ外務大臣ノ許可ヲ得タルトキニ限ル

第二十三條　特命全權公使、辨理公使、臨時代理公使赴任、公用歸國賜暇歸朝又ハ兼任國ヘ旅行スル場合ニ於テ現ニ從者ヲ隨伴スルトキハ從者一人ヲ限リ其ノ實費ヲ給ス

○

朕警視廳高等官俸給令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百二十二號（官報　五月二十五日）

警視廳高等官俸給令

第一條　警視廳高等官ノ年俸ハ左ノ如シ

警視總監

一級　四千圓

二級　二千四百圓

警視主事、第一部長、第二部長ニ補スル者

三級　二千二百圓

警察醫長

四級　二千圓

五級　千八百圓

六級　千六百圓

千四百圓

典獄　第四部長ニ補スル者

警視　警察署長ニ補スル者
典獄　監獄署長ニ補スル者

第二條　警察署長ニ補スル警視ノ俸給區別ハ內務大臣其ノ警察署ニ就テ之ヲ指定スヘシ

一級	千六百圓
二級	千四百圓
三級	千二百圓
四級	千圓
一級	千四百圓
二級	千二百圓
三級	千圓
四級	九百圓
五級	八百圓
六級	七百圓
七級	六百圓

附則

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク

○

朕明治三十一年勅令第二百六十八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百二十三號（官報　五月二十五日）

明治三十一年勅令第二百六十八號中「技手專任二人」ヲ「技手專任三人」ニ「書記專任二人」ヲ「書記專任一人」ニ改ム

〔參照〕
明治三十一年十二月二日勅令第二百六十八號ハ臨時檢疫職員ノ件ナリ

○

朕陸軍一年志願兵條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第二百二十四號（官報　五月二十五日）

陸軍一年志願兵條例中左ノ通改正ス

第八條中「北海道廳支廳長」ノ下ニ「又ハ區長」ヲ加フ

第十二條中「時日ヲ定メ」ノ下ニ「北海道廳長官」ヲ加フ

第十八條第一項中「二等軍曹」ヲ「伍長」ニ第二項中「步兵ニ在テハ」ヲ「旅團長ノ下ニ在ル聯隊長ハ」ニ「二等軍曹」ヲ「軍曹」ニ「二等軍曹」ヲ「伍長」ニ改ム

第二十二條第一項中「下士ノ勤務」以下ヲ「下士ノ勤務ヲ爲サシム」ニ改メ第二項中「於テシ三等書記ノ階級ニ進ムルハ師團監督部長ニ」ヲ削ル

第二十五條第一項中「軍醫部長獸醫部長ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ」ヲ「師團長ノ認可ヲ受ケ」ニ改メ「軍吏生ニ在テハ二等書記ニ任シ」ヲ削ル

同條第二項第三項ヲ左ノ如ク改ム

其ノ落第者ニ在テハ軍醫生及藥劑生ニハ衛生部下士適任證書、獸醫生ニハ蹄鐵工長適任證書、軍吏生ハ之ヲ伍長ニ任シ之ニ計手適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

衛生部下士適任證書ハ軍醫部長、蹄鐵工長適任證書ハ聯隊長之ヲ付與シ伍長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ聯隊長之ヲ任シ計手適任證書ハ監督部長之ヲ付與ス

第二十九條第一項中「軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊二等軍曹」ヲ削ル

第三十七條中「處分ス」ノ下ニ「但シ一年志願兵認定證書付與後入隊前ノ者ニ在テハ師團長自ラ第二國民兵役ニ服セシメ若ハ兵役ヲ免スルノ處分ヲ爲ス」ヲ加フ

第三十八條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第三十九條　臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ當分臺灣守備歩兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

第四十條　前條ニ依リ服役スル者ニ關シテハ本條例中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ

混成旅團長ハ部下ノ將校及軍醫ニ一年志願兵檢査委員ヲ命シ身體檢査其ノ他徵募ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第四十一條　第三十九條ニ依リ服役セント欲スル者ハ明治三十三年ニ限リ七月三十一日迄ニ第八條ノ願書ヲ差出スコトヲ得

〔參照〕

勅令第七十三號陸軍一年志願兵條例（明治二十六年七月二十日官報）抄錄

第八條　一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長（東京府大阪ノ三市及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長北海道ニ在テハ北海道廳支廳長以下同シ）ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戶主ニアラサルモノハ戶主二十歲未滿者ハ戶主若クハ後見人及親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認書ヲ添附スルヲ要ス

第十二條　師團長ハ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體檢査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ檢査地ニ召集ス

第十八條　一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ總督セシム其ノ一等卒上等兵ヲ命シ又二等軍曹ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テスルモノトス其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試驗委員ヲシテ終末試驗ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長（聯隊ニ在テハ區隊長ヲ經テ師團長ヲ經テ）ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試驗及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

第二十二條　前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫部長獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタルトキ一等卒及上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テシ三等書記ノ階級ニ進ムヘシ

第二十五條　軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長ニ於テスルモノトス

委員ヲシテ終末試驗ヲ爲サシメ其及第者ニハ軍醫生獸醫生及軍吏生ニ終末試驗及第證書ヲ授與シ軍吏學生ニ在テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

其ノ落第者ニ在テハ軍醫生ハ看護長適任證書、藥劑生ハ調劑手適任證書、獸醫生ハ蹄鐵工下長適任證書、軍吏生ハ軍吏部下士適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

二等書記ノ任官及各適任證書ノ付與ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該聯隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十九條　一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊二等軍曹ト同一トス

第三十七條　第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス

○

陸水路部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百二十五號（官報　五月二十五日）

海軍大臣山本權兵衛

水路部條例

第一條　水路部ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　水路部ハ水路ノ測量、水路圖誌ノ調製、航海ノ保安、測器、水路官ノ勤務及教育ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第三條　水路部ニ部長ヲ置キ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理セシム

第四條　水路部長ハ其ノ名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國水路部ト直接通信スルコトヲ得

第五條　水路部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　水路部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第七條　水路部ニ測量科圖誌科測器科及會計課ヲ置ク

第八條　測量科ニ於テハ測量原圖、水路記事ノ調製、水路官ノ勤務及教育ニ關スルコトヲ掌ル

第九條　圖誌科ニ於テハ水路圖誌ノ調製、配備及保管ニ關スルコトヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第十條　測器科ニ於テハ測器ノ準備檢査及供給ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條　會計課ニ於テハ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條　測量科圖誌科及測器科ニ科長及科員ヲ置キ會計課ニ課長ヲ置ク

前項ノ外圖誌科ニ編修ヲ置ク

第十三條　科長課長ハ水路部長ノ命ヲ承ケ其ノ科課ノ事務ヲ掌理ス

第十四條　科員及編修ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　前諸條ニ掲クル職員ノ外書記及海軍編修書記、技手ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

○

朕海軍大學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百二十六號（官報　五月二十五日）

海軍大臣山本權兵衛

海軍大學校條例中左ノ通改正ス

第三條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第十九條中「海軍將官會議議員」ノ下ニ「海軍教育本部長」ヲ加フ

第二十條中「海軍大臣」ノ下ニ「ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長」ヲ加フ

第二十三條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第二十四條中「海軍大臣ニ稟申ス」ヲ「海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス」ニ改ム

第二十六條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百二十六號海軍大學校條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第三條　校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ總理ス

第十九條　海軍大學校學生銓衡委員ハ海軍將官會議議員海軍大學校長及海軍大臣ノ特ニ命スル海軍佐官以上ヲ以テ組成シ委員長ハ銓衡委員中先任將官ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條　入學試驗ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十三條　校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ學生ヲ實地研究ノ爲海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所、水路部、海軍造兵廠、海軍造船廠等ニ派遣シ修學セシムルコトヲ得

前項ニ依リ派遣セラレタル學生ハ派遣中研究スヘキ事項ニ關シ當該職長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條　校長ハ學生中不適合ト認ムル者アルトキハ海軍大臣ニ稟申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアルヘシ但シ將校科甲種學生ニ於テハ海軍大學校學生銓衡委員ノ檢定ヲ經ルヲ要ス

第二十六條　海軍大學校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍兵學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百二十七號（官報　五月二十五日）

海軍兵學校條例中左ノ通改正ス

第四條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第十七條中「海軍大臣」ノ下ニ「ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長」ヲ加フ

第二十三條及別表ヲ削ル

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

勅令第三百二十七號海軍兵學校條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第十七條　生徒ノ召募及檢査格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十三條　海軍兵學校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍機關學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百二十八號（官報　五月二十五日）

海軍機關學校條例中左ノ通改正ス

第四條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第十七條中「海軍大臣」ノ下ニ「ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長」ヲ加フ

第二十三條及別表ヲ削ル

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

勅令第三百二十三號海軍機關學校條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第十七條　生徒ノ召募及檢査格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十三條　海軍機關學校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日　海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百二十九號（官報　五月二十五日）

海軍軍醫學校條例

第一條　海軍軍醫學校ハ海軍軍醫官ニ高等ノ學術ヲ教授シ兼テ海軍少軍醫候補生ニ軍醫官タルニ必要ナル學科ヲ教授スル所トス

海軍軍醫學校ニ於テハ被服糧食等ノ衛生試驗ヲ行フ

第二條　海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
監事
教官
主計長

第三條　校長ハ海軍省醫務局長ニ隷シ校務ヲ總理ス

第四條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第五條　監事ハ校長ノ命ヲ承ケ學生ヲ監督シ紀律ヲ維持ス

第六條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第七條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　海軍軍醫學校ニハ第二條ニ掲クル職員ノ外書記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第九條　海軍軍醫學校ニ於テ教授スル海軍軍醫官及海軍少軍醫候補生ヲ海軍軍醫學校學生及海軍軍醫學校選科學生ト稱ス

第十條　海軍軍醫學校學生ハ海軍軍醫及海軍少軍醫候補生ニ海軍大臣之ヲ命ス

第十一條　海軍軍醫學校選科學生ハ海軍軍醫監若ハ實役停年三箇年以上ヲ經タル海軍大軍醫ニシテ學生タランコトヲ志願スル者ニ海軍大臣之ヲ命ス

第十二條　海軍軍醫學校選科學生ニハ各自ノ選擇スル學科ヲ修メシム

第十三條　校長ハ學生中不適合ト認ムル者アルトキハ海軍省醫務局長ニ稟申ス海軍省醫務局長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアルヘシ

第十四條　海軍軍醫學校學生在學中高級ノ官等ニ進級スル場合ト雖卒業迄滯學セシムルコトヲ得

第十五條　海軍軍醫學校學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ卒業證書ヲ授與ス

○

朕海軍砲術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日　海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三十號（官報　五月二十五日）

海軍砲術練習所條例中左ノ通改正ス

第二條中「横須賀鎮守府ニ屬シ」ヲ削ル

第四條中「鎮守府司令長官」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第三十一條中「鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ」ヲ「海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス」ニ改ム

第三十二條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百二十八號海軍砲術練習所條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第二條　海軍砲術練習所ハ横須賀鎮守府ニ屬シ砲術ノ教授ヲ掌リ且砲術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第四條　所長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第三十一條　所長ハ海軍砲術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官以上ニ在テハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒竝商船學校學生ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　海軍砲術練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍水雷術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三十一號（官報　五月二十五日）

海軍水雷術練習所條例中左ノ通改正ス

第二條中「横須賀鎮守府ニ屬シ」ヲ削ル

第四條中「鎮守府司令長官」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第三十二條中「鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ」ヲ「海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス」ニ改ム

第三十三條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百二十九號海軍水雷術練習所條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第二條　海軍水雷術練習所ハ横須賀鎮守府ニ屬シ水雷術ノ教授ヲ掌リ且水雷術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第四條　所長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第三十二條　所長ハ海軍水雷術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官以上ニ在テハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

第三十三條　海軍水雷術練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍機關術練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三十二號（官報　五月二十五日）

海軍機關術練習所條例中左ノ通改正ス

第二條中「横須賀鎮守府ニ屬シ」ヲ削ル

第四條中「鎮守府司令長官」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第二十八條中「鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ」ヲ「海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育本部長至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス」ニ改ム

第二十九條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百二十四號海軍機關術練習所條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第二條　海軍機關術練習所ハ横須賀鎮守府ニ屬シ機關術ノ教授ヲ掌リ且機關ニ關スル工業ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第四條　所長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第二十八條　所長ハ海軍機關術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官ニ在テハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　海軍機關術練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍主計官練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百三十三號（官報　五月二十五日）

海軍主計官練習所條例中左ノ通改正ス

第四條中「海軍大臣」ヲ「海軍省經理局長」ニ改ム

海軍大臣山本權兵衛

第九條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第百九十三號海軍主計官練習所條例（明治三十二年五月十五日官報）抄錄

第四條　所長ハ海軍大臣ニ隸シ所務ヲ總理ス

第九條　海軍主計官練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍造船工練習所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百三十四號（官報　五月二十五日）

海軍造船工練習所條例中左ノ通改正ス

第十四條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百二十五號海軍造船工練習所條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第十四條　海軍造船工練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍造兵廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三十五號（官報　五月二十五日）

海軍造兵廠條例中左ノ通改正ス

第三條中「吳鎭守府司令長官」ヲ「吳鎭守府艦政部長」ニ「海軍大臣」ヲ「海軍艦政本部長」ニ改ム

第十三條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第百五十一號海軍造兵廠條例（明治三十年五月二十五日官報）抄錄

第三條　海軍造兵廠ニ廠長ヲ置キ吳造兵廠長ハ吳鎭守府司令長官ニ隸シ東京造兵廠長ハ海軍大臣ニ隸シ廠務ヲ總理セシム

第十三條　各海軍造兵廠ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍下瀨火藥製造所條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三十六號（官報　五月二十五日）

海軍下瀨火藥製造所條例中左ノ通改正ス

第三條中「海軍大臣」ヲ「海軍艦政本部長」ニ改ム

第八條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第百四十四號海軍下瀨火藥製造所條例（明治三十二年四月十四日官報）抄錄

第三條　所長ハ海軍大臣ニ隸シ所務ヲ總理ス

第八條　海軍下瀨火藥製造所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕造船造兵監督官條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三十七號（官報　五月二十五日）

造船造兵監督官條例中左ノ通改正ス

第三條及第四條中「海軍省軍務局長」ヲ「海軍艦政本部長」ニ改ム

〔參照〕

勅令第六十四號海軍造船造兵監督官條例（明治三十一年三月三十日官報）抄錄

第三條　造船造兵監督長ハ海軍省軍務局長ニ隸シ所管監督事務ヲ總理ス

第四條　造船監督官造兵監督官及造船造兵監督會計官ハ海軍省軍務局長ノ指揮ヲ承ケ（造船造兵監督長ヲ置キタル場合ニ於テハ造船造兵監督長ノ指揮ヲ承ケ監督助手及監督書記ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

○

朕海軍技術會議條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百三十八號（官報　五月二十五日）

海軍技術會議條例中左ノ通改正ス

第二條　海軍技術會議ハ海軍艦政本部長ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ本職アル海軍將官、總監、上長官若ハ士官ヲ以テ之ニ兼補ス

議長ハ海軍大臣ニ隷シ會議ヲ總理ス

第四條　議長事故アルトキハ上席議員ヲ以テ議長トス

第五條　海軍技術會議ニ幹事ヲ置キ海軍艦政本部副官ヲ以テ之ニ兼補ス

幹事ハ議案ノ調査及會議ノ事務ヲ管掌ス

〔參照〕

勅令第五十三號海軍技術會議條例（明治二十六年五月二十二日官報）抄錄

第二條　海軍技術會議議長ハ本職アル海軍將官ヲ以テ之ニ兼補ス但時宜ニ依リ本職アル海軍大佐ヲ以テ兼補スルコトヲ得

議長ハ海軍大臣ニ隷シ會議ノ事務ヲ總理ス

第四條　海軍技術會議ニ幹事一人ヲ置キ海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ補ス幹事ハ議案ノ調査及會議ノ事務ヲ管掌ス

幹事ハ議案ノ調査及會議ノ事務ヲ管掌ス

第五條　議員ハ定數ナシ本職アル海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ兼補ス

○朕海兵團條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百三十九號（官報　五月二十五日）

海兵團條例中左ノ通改正ス

海軍大臣山本權兵衛

第二條　海兵團ハ鎮守府ニ屬シ海軍下士卒ノ教育訓練及軍港ノ守衛ヲ掌リ補缺員ヲ統轄スル所トス

第四條中「徵募官」ヲ削ル

第八條　削除

第十條及第十二條中「士官」ヲ「將校」ニ改ム

〔參照〕

勅令第六十號海兵團條例（明治二十九年三月二十七日官報）抄錄

第二條　海兵團ハ鎮守府ニ屬シ海軍下士卒ノ教育訓練艦船團其ノ他各部下士卒定員ノ補缺軍港ノ守衛兵員ノ徵募召集ヲ掌ル所トス

第四條　海兵團ニ左ノ職員ヲ置ク

第八條　徵募官ハ團長ノ命ヲ承ケ兵籍ヲ主管シ徵兵募兵及艦船團其ノ他各部定員ノ補缺並ニ豫備兵後備兵ノ召集簡閲點呼ニ關スル事ヲ掌ル

第十條　將校分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ當直士官ト稱シ團長ノ命ヲ承ケ團務ヲ掌理ス

第十二條　中尉及少尉ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ副直士官ト稱シ當直士官ノ命ヲ承ケ服務ス

○朕海軍造船廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

勅令第二百四十號（官報　五月二十五日）

海軍造船廠條例中左ノ通改正ス

海軍大臣山本權兵衛

第二條中「鎮守府」ノ下ニ「艦政部」ヲ加フ

第三條中「司令長官」ヲ「艦政部長」ニ改ム

第十四條及別表ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三百二十號海軍造船廠條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第二條　海軍造船廠ハ鎮守府ニ屬シ艦船ノ製造修理艤裝其ノ他造船事業ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第三條　海軍造船廠ニ廠長ヲ置キ鎮守府司令長官ニ隸シ廠務ヲ總理セシム

第十四條　海軍造船廠ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

朕海軍病院條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百四十一號（官報　五月二十五日）

海軍病院條例中左ノ通改正ス

第七條　海軍病院ニ療品庫、試驗所及看護術練習所ヲ置ク

第十條　看護術練習所ニ於テハ高等看護術ノ教授ヲ掌ル

第十一條　療品庫、試驗所及看護術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

療品庫

主管

試驗所

所長

所員

看護術練習所

所長

教官

第十二條　療品庫主管ハ院長ノ命ヲ承ケ療品庫ニ關スル事ヲ掌ル

第十三條　試驗所長ハ院長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第十四條　試驗所員ハ所長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　看護術練習所長ハ院長ノ命ヲ承ケ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ掌ル

第十六條　看護術練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第十七條　海軍病院ニハ第三條及第十一條ニ掲クル職員ノ外海軍看護長竝准士官下士卒及書記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十八條　看護術練習所ニ於テ教授スル看護手看護ヲ看護術練習生ト稱ス

第十九條　看護術練習生ハ左ノ三種ニ區別ス

一　乙種看護術練習生

二　甲種看護術練習生

三　看護術ノ復習ヲ爲ス者

第二十條　乙種看護術練習生ハ一等看護手以下三等看護以上ノ者ニシテ左ノ各號ニ適合スル者ノ

中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健品行方正ナル者

二　一箇年以上海上勤務ニ服セシ者

第二十一條　甲種看護術練習生ハ一等看護手以下二等看護以上ノ者ニシテ左ノ各號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健品行方正ナル者

二　乙種看護術練習生卒業試驗ニ優等ノ成績ヲ得タル者

三　二箇年以上海上勤務ニ服セシ者

四　甲種看護術練習生タランコトヲ志願シ卒業後一回以上再服役ヲ爲スヘキコトヲ誓約スル者

前項第四號ノ誓約ヲ爲シタル後卒ヨリ下士ニ進級シタル場合ニ於テハ再服役ヲ爲スコトヲ要セス

第二十二條　甲種看護術練習生卒業シタルトキハ之ニ裝創證狀ヲ授與ス

第二十三條　看護術ノ復習ヲ爲ス者ハ裝創證狀ヲ有スル者ニシテ復習ヲ志願シ左ノ各號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一　身體强健品行方正ナル者

二　卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者若ハ服スヘキコトヲ誓約スル者

第二十四條　復習ヲ爲ス看護術練習生卒業シタルトキハ裝創證狀ヲ授與ス

第二十五條　裝創證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ

第二十六條　裝創證狀ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ付與ス

第二十七條　裝創證狀ノ有效期限ハ五箇年トス其ノ期滿ツレハ臂章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

〔參照〕

勅令第三百二十一號海軍病院條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第七條　海軍病院ニ療品庫及試驗所ヲ設ク

第十條　療品庫及試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

療品庫　主管

試驗所　所長

所員

第十一條　主管ハ院長ノ命ヲ承ケ療品庫ニ關スル事ヲ掌ル

第十二條　所長ハ院長ノ命ヲ承ケ試驗所ニ關スル事ヲ掌ル

第十三條　所員ハ所長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　海軍病院ニハ第三條及第十條ニ揭クル職員ノ外海軍看護長並准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十五條　各海軍病院ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

○

除明治三十年勅令第百十六號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百四十二號（官報　五月二十五日）

明治三十年勅令第百十六號中左ノ通改正ス

第一條量器中枡ノ部圓壔形檜、樅、銀杏、姫子松ノ區畫「一斗　九三、八〇　六四八二七〇、〇〇」ノ次ニ左ノ如ク加フ

二斗	一八、一九	一二九六五四〇、〇〇
二斗五升	二七、三二	一六二〇六七五、〇〇
三斗	三五、二九	一九四四八一〇、〇〇

第一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第一條ノ二　二斗以上ノ量器ハ瓲ヲ量ルトキニ限リ之ヲ用ウルコトヲ得

第三條量器容量、水重及寸法ノ公差中容量ノ公差ノ部「一斗又ハ二十「リットル」以下」ヲ「三斗又ハ二十「リットル」以下」ニ改ム

第九條檢定料中量器ノ部檜、樅、銀杏、姫子松、鐵葉ノ區畫「一斗　五〇」ノ次ニ左ノ如ク加フ

二斗	一〇、〇
二斗五升	一五、〇
三斗	二〇、〇

〔參照〕

明治三十年四月二十七日官報勅令第百十六號ハ度量衡器ノ制限、其製作、修覆及販賣ノ免許竝檢定ニ關スル件ナリ

○

朕府縣ノ警視ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西郷從道

勅令第二百四十三號（官報　五月二十八日）

第一條　俸給豫算定額内ニ於テ府縣ニ警視ヲ置クコトヲ得

第二條　警視ハ警察部ニ屬シ又ハ警察署長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

第三條　警察部ニ屬スル警視ハ大阪府ハ二人、其ノ他ノ府縣ハ一人ヲ踰ユルコトヲ得ス

警察署長ニ補スル警視ハ各府縣ヲ通シテ八十人以内トス

警視ヲ置クヘキ警察署ハ内務大臣之ヲ指定ス

第四條　警視ノ俸給左表ノ如シ

一級	二級	三級	四級	五級	六級
千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第二百四十四號（官報　五月二十八日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中府縣ノ部府縣郡長ノ次六等乃至八等ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

府縣警視	同	上	同	上

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治三十二年勅令第三號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西郷從道

勅令第二百四十五號（官報　五月二十八日）

明治三十二年勅令第三號中「警視廳」及「及北海道廳警視」ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三號（明治三十二年一月十一日官報）

警視廳警察署長ニ補スヘキ警視及北海道廳警視ハ五箇年以上警察ニ關スル職務ニ從事シ判任官五級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ當分ノ内試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治三十二年勅令第一號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西郷從道

勅令第二百四十六號（官報　五月二十八日）

明治三十二年勅令第一號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十二年一月七日官報　勅令第一號ハ警部長特別任用ノ件ナリ

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ鐵道事務官補任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第二百四十七號（官報　五月二十八日）

鐵道事務官補ノ任用ニ就テハ明治三十年勅令第三百五十八號ヲ適用ス

〔參照〕

明治三十年十月十五日官報　勅令第三百五十八號ハ鐵道事務官ハ鐵道ニ關スル技師技手又ハ滿三年以上遞信省鐵道局若ハ鐵道作業局ノ判任官ニ在職シタル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得ルノ件ナリ

○

朕府縣出納吏及郡出納吏ノ身元保證竝賠償責任ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十六日　　内務大臣侯爵西郷從道

勅令第二百四十八號（官報　五月二十八日）

第一條　府縣出納吏ハ府縣ニ對シ郡出納吏ハ郡ニ對シ其ノ管掌ニ屬スル現金、證券及物品ノ亡失毀損ニ付賠償ノ責任ヲ有ス

第二條　府縣出納吏、郡出納吏前條ノ現金、證券又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ府縣出納吏ニ對シテハ府縣知事、郡出納吏ニ對シテハ郡長ニ於テ期間ヲ指定シ其ノ賠償ヲ命スヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキハ府縣出納吏ニ付テハ府縣參事會、郡出納吏ニ付テハ郡參事會ノ議決ヲ經テ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘシ

本條郡長ノ處分ニ不服アル郡出納吏ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル郡出納吏及府縣知事ノ處分ニ不服アル府縣出納吏ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願ハ命令書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ

第三條　賠償金ノ徴收ニ關シテハ府縣ニ在テハ府縣制第百十六條第二項乃至第六項、郡ニ在テハ郡制第九十四條ノ例ニ依ル

第四條　府縣出納吏、郡出納吏ニ對シ身元保證ヲ徴スルノ必要アリト認メタルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ種類、程度其ノ他身元保證ニ關シ必要ナル規定ヲ定ムルコトヲ得

○

朕稅關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月二十八日　　内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第二百四十九號（官報　五月二十九日）　　大藏大臣伯爵松方正義

稅關官制中左ノ通改正ス

第四條中事務官補「三百十二人」ヲ「三百十三人」ニ監視「七十七人」ヲ「七十八人」ニ鑑定官補「百十七人」ヲ「百十八人」ニ監吏「六百八十八人」ヲ「六百八十二人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕憲兵條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月三十日

内務大臣侯爵西郷從道
陸軍大臣子爵桂太郎
海軍大臣山本權兵衛
司法大臣清浦奎吾

勅令第二百五十號（官報　五月三十一日）

憲兵條例中左ノ通改正ス

第三條第一項ノ次ヘ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中「要塞司令官」ヲ削ル

憲兵ハ要塞地帶法ノ施行ニ付テハ要塞司令官又ハ要塞司令官ノ職務ヲ行フ官廳、軍港要港規則ノ施行ニ付テハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官又ハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ職務ヲ行フ官廳ノ指示ヲ承タ

第十條中「一等軍曹」ヲ「軍曹」ニ「軍吏部下士」ヲ「計手」ニ「蹄鐵工(下)長」ヲ「蹄鐵工長」ニ改ム

別表中「第六師管」ノ下ニ「第十二師管佐賀縣西松浦郡曲川村大山村二里村東山代村有田村」ヲ「第十二師管」ノ下ニ「佐賀縣西松浦郡曲川村大山村二里村東山代村有田村ヲ除ク」ヲ加フ

○

朕生絲檢査所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月三十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百五十一號（官報　五月三十一日）

生絲檢査所官制中左ノ通改正ス

第六條中「十一人」ヲ「十七人」ニ「六人」ヲ「八人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第九十三號生絲檢査所官制（明治二十八年七月四日官報）抄錄

第六條　各生絲檢査所ヲ通シテ專任技師四人專任技手十一人專任書記六人ヲ以テ定員トス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ開港港則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年五月三十日

大藏大臣伯爵松方正義
内務大臣侯爵西鄕從道
外務大臣子爵青木周藏
遞信大臣子爵芳川顯正

勅令第二百五十二號（官報　五月三十一日）

開港港則第一條中神戸長崎濱田ノ港界ヲ左ノ通改ム

神戸ノ港界ハ脇ノ濱ノ東角ヨリ正南ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ北東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

長崎ノ港界ハ小瀨戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ長刀岩マテ夫ヨリ東微南ニ引キタル線以内

濱田ノ港界ハ黑埼ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端（千疊敷鼻）ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内

同條中四日市ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

絲崎ノ港界ハ糸埼ヨリカイノ山ノ嶺ニ引キタル一線以内

附則

本令ハ明治三十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百三十九號開港港則（明治三十一年七月八日官報）抄錄

第一條　左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

神戸ノ港界ハ生田川ノ筋口ヨリ南方ニ向ヒ引キタル一線ト和田崎ヨリ北東ニ向ヒ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内ニ含マル

長崎ノ港界ハ神崎ヨリ女神ニ引キタル一線内ニ含マル

濱田ノ港界ハ黑埼ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端（千疊敷鼻）ヨリアブミ埼ニ引キタル一線以内

○

朕行政執行法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
内務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂太郎
文部大臣伯爵樺山資紀
外務大臣子爵青木周藏
遞信大臣子爵芳川顯正
海軍大臣山本權兵衛
司法大臣清浦奎吾
農商務大臣曾禰荒助

勅令第二百五十三號（官報　六月二日）

行政執行法施行令

第一條　廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

前項設備ニ要スル費用ハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條　生命、身體若ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリ

ト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ掲クル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

一　崩壞又ハ人ヲ陷落セシムルノ虞アル場所

二　家屋其ノ他ノ工作物

三　船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置

四　汽罐、汽機及其ノ附屬裝置

五　前各號ニ掲ケタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地、物件

第三條　危害豫防ノ爲又ハ衞生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第四條　行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　各省大臣　二十五圓

二　廳府縣長官　十圓

三　其ノ他ノ行政官廳　二圓

第五條　行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條　行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條　行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ

前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人又ハ媒合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第八條　他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ强制スル爲豫メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキ又ハ行政處分ヲ强制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月一日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
內務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂太郎
海軍大臣山本權兵衞

勅令第二百五十四號（官報六月二日）

臺灣總督府官制第四條中「陸軍軍隊敎育ニ關シテハ」ノ下「陸軍大臣」ヲ「敎育總監」ニ改ム

○

朕北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月一日

内務大臣侯爵西郷從道
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百五十五號（官報　六月二日）

第一條　本令ハ北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ之ヲ適用ス

第二條　組合ノ組織ハ無限責任トス但シ設立後十箇年ヲ經タルモノハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ有限責任又ハ保證責任ト爲スコトヲ得

第三條　産業組合ハ二十人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第四條　主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ三箇年以内ノ期限ヲ以テ組合創業費ノ一部又ハ全部ヲ其ノ組合ニ貸與スルコトヲ得

第五條　出資ハ勞務ヲ以テ其ノ目的ト爲スコトヲ得

第六條　組合員ノ出資口數ハ一口トス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル場合ハ十口以下ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條　組合ノ理事ハ三名以上監事ハ二名以上トス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル場合ハ此限ニ在ラス

第八條　理事ハ總組合員ノ承諾アルニ非サレハ組合ト同一ノ事業ヲ目的トスル他ノ組合ノ理事ト爲ルコトヲ得ス

第九條　組合ハ毎事業年度ノ終リ迄ニ總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ北海道廳支廳長ニ報告スヘシ

一　次年度ニ於ケル業務施行ノ方針

二　次年度ニ於ケル負債額ノ最高限度

三　信用組合ニ在テハ次年度ニ於テ組合員ニ貸付シ得ヘキ金額ノ最高限度

前項第二號ノ負債額ノ最高限度ハ現在負債額ヲ合シテ之ヲ定メ其ノ年度内ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　組合ハ組合員ノ脫退シタル場合ニ於テモ出資ノ外其ノ持分ヲ拂戻スコトヲ得ス

第十一條　存立時期ヲ定メタル組合ニ於テハ其ノ組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外總組合員ノ同意アルニ非サレハ脫退スルコトヲ得ス

第十二條　組合ハ組合員ノ數二十人以下ニ減シタルトキハ解散ス

第十三條　登記及居出ニ關シ産業組合法ニ於テ定メタル二週間ノ期間ハ本令ニ於テハ之ヲ三週間トス

第十四條　産業組合法ニ定メタル郡長ノ職務ハ支廳長之ヲ行フ

附則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム

○

朕第五回内國勸業博覽會事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百五十六號（官報　六月四日）

第五回内國勸業博覽會事務局官制

第一條　第五回内國勸業博覽會事務局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ第五回内國勸業博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條　第五回内國勸業博覽會事務局ニ總裁一人ヲ置キ第五回内國勸業博覽會ニ關スル事項ヲ總裁セシム

總裁ハ皇族中ヨリ勅ニ依リ之ヲ命ス

第三條　第五回内國勸業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

副總裁　一人

審査總長　一人

事務官長　一人

審査部長

事務官

審査官

書記

第四條　副總裁ハ農商務大臣ヲ以テ之ニ充テ審査總長ハ勅任官ノ中ヨリ之ヲ命シ事務官長ハ農商務總務長官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

副總裁、審査總長、事務官長及事務官ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク

審査部長及審査官ハ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

審査部長、審査官ニシテ官吏タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ケ其ノ官吏ニ非サル者ハ奏任官ノ待遇ヲ受ク

書記ハ判任官又ハ官吏ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

書記ハ判任官ノ待遇ヲ受ク

第五條　重要ノ事項ヲ審議調査セシムル爲學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シテ評議員若干人ヲ置クコトヲ得

第六條　審査總長、審査部長、事務官、審査官及評議員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ書記ハ副總裁之ヲ命ス

第七條　副總裁ハ所部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總判ス

第八條　事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第九條　事務官ハ副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十條　審査總長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條　審査部長ハ副總裁又ハ審査總長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十二條　審査官ハ副總裁、審査總長及審査部長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

朕第五回内國勸業博覽會事務局職員懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百五十七號（官報　六月四日）

第五回內國勸業博覽會事務局職員ニシテ高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

○

朕工業試驗所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百五十八號（官報　六月四日）

工業試驗所官制

第一條　工業試驗所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ工業ニ關スル試驗、分析及鑑定ノ事ヲ掌ル

第二條　工業試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人　專任四人

技師　專任八人

技手　專任三人

書記

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

朕工業試驗所長タル技師ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋

農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百五十九號（官報　六月四日）

工業試驗所長タル技師ニハ特ニ年俸三千圓迄ヲ給スルコトヲ得

○

朕國稅徵收法ニ依ル公共團體指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月九日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百六十號（官報　六月十一日）

北海道一級町村制ニ依ル町村ハ國稅徵收法第三十三條第三項ノ公共團體ト指定ス

附則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕北海道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百六十一號（官報　六月十二日）

北海道廳官制中左ノ通改正ス

第七條中「技師」ノ上ニ「專任」ヲ加フ

〔參照〕
勅令第三百九十二號北海道廳官制（明治三十年十一月二日官報）抄錄
第七條　技師ハ十人ヲ以テ定員トス

○

朕港灣調査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百六十二號（官報　六月十二日）

港灣調査會規則

第一條　港灣調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ港灣制度ニ關スル調査ヲ爲シ及港灣ニ關スル重要事項ニ付關係各省大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　港灣調査會ハ港灣ニ關スル事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　港灣調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

第四條　港灣調査會ハ會長一人委員十六人ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要ノ場合ニ於テハ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第五條　會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ内務省高等官三人大藏省、農商務省、遞信省高等官各二人外務省、陸軍省、參謀本部、海軍省、海軍軍令部、水路部高等官及東京帝國大學工科大學教授各一人ヲ以テ之ニ充ツ

土木監督署長ハ定員ノ外委員トシテ調査ヲ爲シ又會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條　會長ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　會長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ内務大臣ニ具申ス但シ其ノ議事ノ關係各省大臣ノ諮詢ニ係ルトキハ其ノ決議ヲ關係各省大臣ニ具申シ及之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第八條　港灣調査會ニ幹事一人ヲ置キ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　港灣調査會ニ書記若干人ヲ置キ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

朕明治三十三年法律第五十號ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月十二日

内務大臣侯爵西郷從道

勅令第二百六十三號（官報六月十三日）

明治三十三年法律第五十號ヲ臺灣ニ施行ス

○

朕海軍准士官下士任用進級條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月十二日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百六十四號（官報六月十三日）

海軍准士官下士任用進級條例中左ノ通改正ス

第十四條中「海兵團在籍ノ區別ニ從ヒ所管鎮守府司令長官」ヲ「在籍鎮守府司令長官」ニ改ム

〔參照〕

勅令第三百一號海軍准士官下士任用進級條例（明治二十九年九月七日官報）抄錄

第十四條　下士ノ任用進級ハ海兵團在籍ノ區別ニ從ヒ所管鎮守府司令長官之ヲ行ヒ其ノ艦隊ニ屬スル者ハ艦隊司令長官之ヲ行フ

○

朕臨時檢疫局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月十四日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西郷從道

勅令第二百六十五號（官報六月十五日）

第一條　内務省ニ臨時檢疫局ヲ置ク

臨時檢疫局ニ於テハ傳染病豫防ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條　臨時檢疫局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁	一人	勅任
副總裁	一人	
委員	十人以内	奏任
事務官長	一人	勅任
事務官	專任三人	奏任
技師	專任四人	
技手	專任十人	判任
書記	專任十人	

第三條　委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　總裁ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

總裁ハ局中一切ノ事務ヲ總理シ所部ノ職員ヲ指揮監督ス

副總裁ハ總裁ヲ輔ケ總裁事故アルトキハ之ヲ代理ス

第五條　委員ハ總裁及副總裁ノ命ヲ承ケ傳染病豫防ニ關スル事項ヲ審議ス

總裁ハ必要ト認ムルトキハ委員ヲシテ特ニ防疫事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第六條　事務官長ハ內務省衞生局長ヲ以テ之ニ充ツ

事務官長ハ總裁及副總裁ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第七條　事務官及技師ハ總裁、副總裁及事務官長ノ指揮ヲ承ケ防疫事務其ノ他局中ノ庶務ヲ分掌ス

第八條　技手及書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ防疫事務其ノ他局中ノ庶務ニ從事ス

第九條　總裁ハ必要ト認ムルトキハ地方ニ出張所ヲ置クコトヲ得

第十條　總裁ハ事務官又ハ技師ニ就キ出張所長ヲ命シ所內ノ事務ヲ統理セシメ所員ヲ指揮監督セシム

第十一條　委員ニハ一箇月三百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條　出張所勤務ノ職員ニハ事務官、技師ニ在リテハ一箇月百二十圓以內、技手、書記ニ在リテハ一箇月七十五圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

○

朕臨時檢疫局職員官等俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
內務大臣侯爵西鄕從道

御名御璽

明治三十三年六月十四日

勅令第二百六十六號（官報　六月十五日）

臨時檢疫局副總裁ハ高等官一等トシ其ノ年俸ハ四千圓トス

臨時檢疫局事務官ハ高等官四等以下八等以上トシ其ノ俸給ハ高等官官等俸給令中高等文官年俸第二號表ニ依ル

○

朕屯田兵給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣子爵桂太郎

御名御璽

明治三十三年六月十八日

勅令第二百六十七號（官報　六月十九日）

屯田兵給與令中左ノ通改正ス

第七表中馬匹保續料ノ區畫「五圓」ヲ「十圓」ニ飼養料ノ區畫甲額「五圓」ヲ「八圓」ニ改ム

○

朕地方測候所職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
文部大臣伯爵樺山資紀

御名御璽

明治三十三年六月十八日

勅令第二百六十八號（官報　六月十九日）

第一條　地方測候所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師
技手
書記

土地ノ情況ニ依リ當分ノ内技師ヲ置カサルコトヲ得

第二條　所長ハ技師技手又ハ道廳府縣官吏ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

技師ノ任免奏薦及宣行ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令第四條第五條ノ例ニ依リ之ヲ行フ

第四條　技手及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

技手及書記ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

第五條　技師ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　三年以上中央氣象臺又ハ附屬測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者又ハ受ケタル者

二　五年以上同一測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シ月俸四十五圓以上ノ俸給ヲ受クル者又ハ受ケタル者

三　氣象ニ關シ特別ノ學術技藝アル者

第六條　技手ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二　三年以上中央氣象臺又ハ測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シタル者

第七條　技師技手及書記ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

附　則

本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

技師官等配當表

奏任					判任				
五等	六等	七等	八等		一等	二等	三等	四等	五等
年俸千六百圓以上	年俸千二百圓以上千六百圓未滿	年俸八百圓以上千二百圓未滿	年俸六百圓以上八百圓未滿	技手	月俸六十圓以上	月俸四十五圓以上六十圓未滿	月俸三十五圓以上四十五圓未滿	月俸二十五圓以上三十五圓未滿	月俸十二圓以上二十五圓未滿
				書記			月俸三十五圓以上	月俸二十五圓以上三十五圓未滿	月俸十二圓以上二十五圓未滿

技手書記等級配當表

○朕北海道廳府縣恩給顧問醫ノ醫術上事項審査ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十日

勅令第二百六十九號（官報　六月二十一日）

北海道廳府縣恩給顧問醫ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ公立學校職員ノ進退ニ關シ醫術上ノ事項ヲ審査ス

文部大臣伯爵樺山資紀

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治二十五年勅令第六十一號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十一日

勅令第二百七十號（官報　六月二十二日）

明治二十五年勅令第六十一號ハ之ヲ廢止ス

附則

明治二十五年勅令第六十一號ニ依リ任用シタル檢査官補ハ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ニシテ五年以上檢査官補ノ職ヲ奉シタル場合ニ限リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ檢査官ニ任用スルコトヲ得

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

〔參照〕

明治二十五年七月九日官報　勅令第六十一號ハ檢査官補特別任用ノ件ナリ

○

朕明治二十九年勅令第百六十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十一日

勅令第二百七十一號（官報　六月二十二日）

明治二十九年勅令第百六十一號中左ノ通改正ス

會計檢査院高等官年俸中檢査官補ノ項ヲ左ノ如ク改ム

檢査官補

一級　千六百圓
二級　千四百圓
三級　千二百圓
四級　千圓
五級　九百圓
六級　八百圓
七級　七百圓
八級　六百圓

但一級俸ヲ受クル者ハ五人ヲ限リ年功ニ依リ特ニ千八百圓ヲ給スルコトヲ得

附則

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額相當ノ俸給ヲ受ケ其ノ俸給額ニ相當スル官等ニ敍セラレタルモノトス

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

〔參照〕

勅令第百六十一號（明治二十九年五月二日官報）抄錄

一級	千二百圓
二級	千　圓
三級	九百圓
四級	八百圓
五級	七百圓
六級	六百圓

檢査官補

但一級俸ヲ受クル者ハ五人ヲ限リ年功ニ依リ特ニ千四百圓ヲ給スルコトヲ得

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第二百七十二號（官報　六月二十二日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中會計檢査院ノ部一等ノ欄會計檢査院長ノ次ニ「會計檢査院部長」ヲ加ヘ檢査官補ノ項ヲ左ノ如ク改ム

檢査官補	同　上
同　上	同　上

高等文官官等相當俸給表中檢査官補ノ項ヲ左ノ如ク改ム

檢査官補	一級俸　三級俸　五級俸　七級俸 二級俸　四級俸　六級俸　八級俸

○

朕准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル諸給與及納金計算方ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十一日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百七十三號（官報　六月二十二日）

准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於テ俸給ヲ基礎トシテ計算スルモノノ中恩給及死亡賜金ハ其ノ受クヘキ俸給額ヲ基準トシテ之ヲ計算シ休職俸給及減俸ハ其ノ受クヘキ俸給額中ヨリ恩給額ヲ控除シタル額ヲ基準トシテ之ヲ計算ス

官吏遺族扶助法第二條ノ納金ハ恩給額ヲ控除シタル額、休職給額又ハ減俸殘額ヲ基準トシテ之ヲ計算ス

○

朕海軍艦船條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十一日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百七十四號（官報　六月二十二日）

海軍艦船條例第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第三十三條ノ二　軍醫官ヲ置カサル軍艦ニハ直屬府部隊等ノ長官部下相當職員ヲ指定シテ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ又必要ト認ムルトキハ部下相當職員ヲ之ニ乘組マシムルコトヲ得

○

朕艦隊條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十一日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百七十五號（官報　六月二十二日）

艦隊條例第二十九條ノ次ニ左ノ二條ヲ追加ス

第二十一條　二隻以上ノ驅逐艦ヲ艦隊ニ編入スル場合ニ在テハ之ヲ以テ特ニ驅逐隊ヲ編制シ驅逐隊司令ヲ置クコトヲ得

前項ノ驅逐隊二隊以上ナルトキハ相互ノ區別ヲナス爲メ第一第二、等ノ字ヲ冠シテ之ヲ區分ス

第三十一條　驅逐隊司令ハ司令長官ノ命ヲ承ケ驅逐隊ヲ指揮シ部下ヲ董督訓練シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌理ス

○

朕鎮守府艦隊條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十一日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百七十六號（官報　六月二十二日）

鎮守府艦隊條例第十條ノ次ニ左ノ二條ヲ追加ス

第十一條　二隻以上ノ驅逐艦ヲ鎮守府艦隊ニ編入スル場合ニ在テハ之ヲ以テ特ニ驅逐隊ヲ編制シ驅逐隊司令ヲ置クコトヲ得

前項ノ驅逐隊二隊以上ナルトキハ相互ノ區別ヲナス爲メ第一第二、等ノ字ヲ冠シテ之ヲ區分ス

第十二條　驅逐隊司令ハ司令官ノ命ヲ承ケ驅逐隊ヲ指揮シ部下ヲ董督訓練シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌理ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依リ清國事件費ニ關スル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十六日

內閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
內務大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵桂太郎
文部大臣伯爵樺山資紀
外務大臣子爵青木周藏
遞信大臣子爵芳川顯正
海軍大臣山本權兵衛
司法大臣清浦奎吾
農商務大臣曾禰荒助

勅令第二百七十七號（官報　六月二十七日）

清國事件ニ關スル經費支辨ノ爲政府ハ軍艦水雷艇補充基金災害準備基金及教育基金ノ特別會計ニ屬スル資金ヲ使用スルコトヲ得

前項ニ依リ使用シタル資金ハ後日補塡スヘシ

○

朕明治二十九年勅令第二百七十八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十七日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百七十八號（官報　六月二十八日）

明治二十九年勅令第二百七十八號中「稅關監吏補巡査及看守」ヲ「稅關監吏、巡査、看守、燈臺所看守及其ノ特ニ定メタル者」ニ改ム

〔參照〕

明治二十九年七月三十日官報　勅令第二百七十八號ハ臺灣總督ハ其所屬稅關監吏補巡査及看守ヲシテ陸軍大臣ノ定メタル銃器ヲ携帶セシムルコトヲ得ルノ件ナリ

○

朕國有土地建物物件付與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十八日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百七十九號（官報　六月二十九日）

內務大臣ハ北海道一級町村制及北海道二級町村制ノ實施ニ際シ從來戶長役場其ノ他公用ニ供シタル國有ノ土地建物物件ニシテ不用ニ歸シタルモノヲ無償ニテ其ノ事務ヲ繼承スル町村ニ付與スルコトヲ得

○

朕政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニ關スル指名競爭ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十八日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百八十號（官報　六月二十九日）

政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニシテ無制限ノ競爭ニ付スルヲ不利トスルトキハ指名競爭ニ付スルコトヲ得

前項ニ依リ契約ヲ爲シタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ各省大臣ヨリ會計檢査院ニ通知スヘシ

○

朕臨時汕田調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十八日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

農商務大臣　曾禰荒助

勅令第二百八十一號（官報　六月二十九日）

油田ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ地質調査所ニ屬セシム

技師　　專任二人

技手　　專任九人

屬　　專任一人

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ依レル監護ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十九日

內務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百八十二號（官報　六月三十日）

第一條　精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日內精神病者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ノ同意ヲ經サルモ七日內假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ

第二條　精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市區町村長ニ引渡サシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市區町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條　市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及第二條但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ

市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知シ第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ヘシ但シ監置ノ方法又ハ場所ノ變更ヲ要スル急迫ノ事情アルトキハ假ニ之ヲ變更シ直ニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ經ヘシ

第四條　市區町村長ハ其ノ監護スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得

第五條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍艦政本部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百八十三號（官報　六月三十日）

海軍艦政本部條例中左ノ通改正ス

第三條第三號中「造兵官」ノ下ニ「以下」ヲ加フ

第五條第二號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

二　造船廠ノ造船事業ニ關スルコト

三　造船ニ從事スル造船官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト

第六條第二號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

三　造船廠ノ造機事業ニ關スルコト

四　造機ニ從事スル造船官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト

〔參照〕

勅令第百九十六號海軍艦政本部條例（明治三十三年五月十九日）抄錄

第三條　第一部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

三　造兵官ノ勤務及教育ニ關スルコト

第五條　第三部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

二　造船廠ニ關スルコト

三　造船官以下ノ勤務及教育ニ關スルコト

第六條　第四部ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス

○

朕鎮守府條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百八十四號（官報　六月三十日）

鎮守府條例中左ノ通改正ス

第十三條中「軍機保護ノ爲ニ」ヲ「要塞地帶法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ」ニ改ム

第二十八條中經理部部長ノ次ノ「部員」ノ二字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第百九十九號鎮守府條例（明治三十三年五月十九日）抄錄

第十三條　司令長官ハ軍機保護ノ爲ニ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得

第二十八條　艦政部、機關部、醫務部、經理部及司法部ニ左ノ職員ヲ置ク

○

朕豫備艦部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百八十五號（官報　六月三十日）

豫備艦部條例中左ノ通改正ス

第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第九條ノ二　機關長ハ部長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事及機關官以下ノ勤務ニ關スル事ヲ掌ル

○

朕海軍兵器廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百八十六號（官報　六月三十日）

海軍兵器廠條例中左ノ通改正ス

第六條中「首席將校」ヲ「將校若ハ造兵官中ノ首席者」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百二號海軍兵器廠條例（明治三十三年五月十九日）抄錄

第六條　廠長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

○

朕要港部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百八十七號（官報　六月三十日）

要港部條例中左ノ通改正ス

第十條中「軍機保護ノ爲」ヲ「要塞地帶法及軍港要港規則ノ施行ニ關シテハ」ニ改ム

第二十六條ノ但書ヲ削除ス

〔參照〕

勅令第二百六號要港部條例（明治三十三年五月十九日）抄錄

第十條　司令官ハ軍機保護ノ爲所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得

第二十六條　水雷敷設隊及水雷艇隊ノ任務並職員及其ノ職務ニ關シテハ水雷團條例ノ規定ヲ適用ス但シ水雷團長ノ職權ハ司令官之ヲ行フ

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ海軍召集條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月三十日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百八十八號（官報　七月二日）

海軍召集條例中左ノ通改正ス

第十一條中「其ノ兵籍ヲ管スル」ヲ「在籍鎮守府ニ屬スル」ニ改ム

第十七條中「其ノ兵籍ヲ管スル海兵團」ヲ「在籍鎮守府」ニ改ム

第十八條及第十九條中「海兵團」ヲ「鎮守府」ニ改ム

第二十二條中「其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第二十三條中「其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ改ム

第二十六條中「海兵團長」ヲ「鎮守府兵事官」ニ改ム

第三十二條中「海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第三十三條第一項中「海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ第二項中「海軍大臣ニ下士卒ノモノニ付テハ海兵團長ニ進達スヘシ」ヲ「海軍大臣ニ進達シ下士卒ノモノニ付テハ鎮守府兵事官ニ送附スヘシ」ニ改ム

第四十七條中「海兵團長」ヲ「鎮守府兵事官」ニ改ム

第四十八條中「海兵團長」ヲ「鎮守府司令長官」ニ改ム

第五十三條　鎮守府司令長官簡閲點呼ヲ行ハントスルトキハ簡閲點呼執行官ニ其ノ巡回區及出發期日ヲ達シ同時ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十四條　鎮守府司令長官ハ簡閲點呼執行官ヲシテ巡回順路ヲ豫定セシメ出發期日ト共ニ之ヲ關係地方長官ニ通知スヘシ

第五十六條中「海兵團」ヲ「鎮守府」ニ「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ改ム

第六十八條中「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ改ム

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ海軍下士卒服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月三十日

海軍大臣山本權兵衛

勅令第二百八十九號（官報　七月二日）

海軍下士卒服役條例中左ノ通改正ス

第六條中「本人ノ籍ヲ管スル」ヲ「在籍鎮守府ニ屬スル」ニ改ム

第七條中「在籍鎮守府ニ屬スル海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第十三條中「本人ノ籍ヲ管スル海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第十五條中「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ改ム

第十九條中「海兵團長ノ管轄ニ屬ス」ヲ「兵事官ヲシテ其ノ兵籍ヲ管セシム」ニ改ム

第二十七條中「本人ノ籍ヲ管スル海兵團所在地」ヲ「在籍鎮守府ニ屬スル海兵團所在地」ニ「本人ノ籍ヲ管スル海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第二十九條中「本人ノ籍ヲ管スル海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第三十二條第一項中「本人ノ籍ヲ管スル海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ司令長官」ニ改メ第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ場合ニ於テ鎮守府司令長官ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第三十三條、第三十五條、第三十六條、第三十七條及第四十二條中「本人ノ籍ヲ管スル海兵團長」ヲ「在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第四十三條中「本人ノ籍ヲ管スル海兵團長ニ屆出ヘシ海兵團長ハ」ヲ「本人在籍鎮守府ノ兵事官ニ屆出ヘシ兵事官ハ」ニ改ム

○

朕陸軍乘馬飼養條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年六月三十日

陸軍大臣子爵桂　太郎

勅令第二百九十號（官報　七月二日）

陸軍乘馬飼養條例中左ノ通改正ス

第一條中第八號「陸軍省軍務局出仕タル各兵科士官」ヲ「陸軍省出仕タル各兵科監督部衛生部及獸醫部士官」ニ改ム

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府國語學校長任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年七月二日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百九十一號（官報七月三日）

臺灣總督府國語學校長ハ學位若ハ學士ノ稱號ヲ有シ一箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シタル者又ハ高等師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニシテ一箇年以上引續キ月額七十五圓以上ノ俸給ヲ受ケ現ニ奏任官若ハ奏任官待遇ノ職ニ在ル者ニ限リ試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

○

朕明治三十三年法律第三十號ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年七月二日

内務大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百九十二號（官報七月三日）

明治三十三年法律第三十號ヲ臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第四十號中第一項ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ

〔參照〕

明治三十三年三月七日官報法律第三十號ハ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル件、同三十二年二月十八日官報勅令第四十號第一項ハ臺灣總督府囑托員雇員及公醫ニシテ公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲ニ該病ニ感染シタルトキ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ明治十九年勅令第二十三號ヲ準用シ手當金ヲ給スル件ナリ

○

朕衛戍病院條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十三年七月三日

陸軍大臣子爵桂太郎

勅令第二百九十三號（官報七月四日）

衛戍病院條例中左ノ通改正ス

第三條　衛戍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

病院長

軍醫